法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-28

和仏法律学校講義録

中村，進午 / 秋山，雅之介 / 中山，成太郎 / 竹井，耕一郎 / 塚田，達二郎

(出版者 / Publisher)
和佛法律學校
(巻 / Volume)
1-16
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
47
(発行年 / Year)
1902-06-20

（明治三十四年十一月四日第三種郵便物認可　毎月二回
明治三十五年六月二十日　發行）

三十五年度　第一學年

和佛法律學校講義録

第拾六號

和佛法律學校發行

第一學年第十六號目次

憲法（自一七九至一九四）　法學士　竹井耕一郎

民法總則（自第一章至第三章）（自一〇九至一一六）　法學士　塚田達二郎

民法物權（自第一章至第六章）（自一七九至一九八）　法學士　中山成太郎

國際公法（平時）（自一七五至一九八）　法學博士　中村進午

國際公法（局外中立）（自二三五至二四八）　法學士　秋山雅之介

雜報

○住職任免當否ノ豫斷○外交官及ビ領事官試驗○判事檢事登用第一回試驗○辯護士試驗○文官高等試驗臨時委員○學年試驗

（正誤　前號中山學士民法物權一六九頁八行第四章ハ同第六章ノ誤又一七九頁以下ニ印刷漏アリタルヲ以テ本號ニ於テ訂正セリ）

090
1902
1-1-16

何ヲ代表スヘキヤ蓋シ箇箇別別ニ國民ヲ代表スルコトハ到底爲シ得ヘカラサルコトニ屬ス左リトテ國民全體トシテモ權利利益ヲ有セストセハ畢竟代表スヘキモノナキニ歸著スヘシト論ス右「レンキ」ノ說ニ對スル第一ノ反對ハ予ノ贊セサル所ナリ何トナレハ予ハ外國ノ制度ニ於テハ國民ハ主權者ナリ即チ國民ハ法人トシテ權利利益ヲ有スト考フルカ故ニ議會カ之ヲ代表スト云フハ必スシモ不可ナラストスレハナリ但國民ヲ主權者ト看做サスシテ而モ之ヲ法人ナリト論スルハ不可ナリ

「レンキ」ノ說ニ對スル第二ノ反對ハ國民ノ選擧ニ由ル議員ノミヲ代表者ト爲スハ誤ナリト云フニ在リ其理由ニ曰ク選擧ハ代表者ヲ出スニ最モ適當ノ方法ナリトハ云ヒ得ヘキモ之ヲ以テ唯一ノ方法ナリト謂フヘカラス例ヘハ貴族院議員ノ如ク他ノ方法ニ依リテ議員ト爲ルモ若シ其職カ國民ノ權利利益ヲ代表スルニ在レハ之ヲ代表者ト稱スルハ毫モ不可ナシト此點ハ實ニ然リ若シ「レンキ」ノ言フカ如クシハ唯選擧セラレシ議員ノミカ代表者ナリ言ヲ換フレハ議會全體トシテハ未タ國民代表ノ機關ト稱スルコト能ハサルコトト爲ルヘシ

以上ハ「レンネ」ノ說ニ對スル反對論者ノ主張ノ要點ナリ

予カ大體ニ於テ「レンネ」ニ反對スルノ點ハ國民主權ヲ國ニ在リテハ統治ノ機關ハ皆國民ノ機關ナリ故ニ當ニ議會ノミナラス其他ノ機關モ皆國民ノ權利利益ヲ代表スルモノナリト云ヒ得ヘシ果シテ然ラハ特ニ議會ノ議員ノミヲ代表者トシテ論スルハ理論未タ正確ナラスト云フニ在リトスル

次ニ「シュルツエ」及ヒ「ブルンチリー」等ハ「レンネ」ト異ナリ國民ヲ以テ直チニ法人ト爲ナス而モ法學上無意味ノモノトモ看サル一種ノ特色ヲ有スル學說ニ屬ス先ツ「シュルツエ」ハ曰ク國民ハ法人ニ非ス故ニ議會ハ之ヲ代表スト謂フコト能ハス然レトモ國民ハ亦單純ナル機械的ノ集合トモ異ナリ一種ノ目的ヲ有シ一種ノ通性ヲ有スル有機的團體ニシテ事實上議會ハ其團體ノ意思ヲ發表スルカ爲メニ設ケラレタルモノナルコト復タ爭フヘカラス畢竟法學上議會ハ法人代表ノ機關トハ云ヒ得サルモ議會ノ意思ハ國民ノ意思ナリト謂フコトヲ得ヘシト蓋シ氏ノ議論ハ甚タ婉曲ナリト雖モ一方ニ於テハ國民ヲ法人ト看做サヽルニ拘ハラス一方ニ於テ國民ノ意思ヲ認ムルハ觀念ノ撞著ナリトノ批難ヲ免レ難シ

何トナレハ法學上國民ノ意思ナルモノアレハ其意思ノ主體タル國民ハ即チ法人ト謂ハサルヘカラサレハナリ

次ニ「ブルンチリー」モ亦國民有機體說ヲ主張シテ曰ク國民ト議會トノ關係ハ譬ヘハ土地ト地圖トノ關係ノ如シ地圖ハ土地ノ形狀ヲ其儘縮寫シタルモノナル如ク議會ハ國民ノ狀態ヲ其儘縮寫セル機關ナリト此觀念ノ穩ナラサルハ後ニ述フル所ニ據リテ明カナリ

尙ホ「ボルンハック」ノ如キハ議會ハ被治者タル臣民ヲ代表シテ治者タル君主ニ對シ其意思ヲ發表スル機關ナリトス此觀念ハ國民ノ中ニ於テ治者被治者ヲ分チ議會ヲ國民全體ノ代表會ナリトセス國民ノ中ニ於テ君主及ヒ其官吏ニ對シテ一般臣民ヲ代表スル機關ナリト爲ス蓋シ氏ハ他ノ學者ノ如ク無形ノ國家ヲ以テ主權者トセス唯リ君主ヲ以テ主權者ナリトスルヨリ此ノ如キ論結ヲ惹起シタルナリ然レトモ此觀念ハ益〻不可ナリ既ニ述ヘタル如ク國民全體トシテハ法人トシテ權利利益ヲ有シ得ヘケレトモ君主及ヒ其官吏ヲ除キ其他ノ臣民ノ集合ヲ以テ權利利益ノ主體トシテ觀察スルコト固ヨリ不可ナリ然ラハ議會ハ果

シテ何ヲ代表スベキヤ蓋シ箇箇別別ニ臣民ヲ代表スルコト能ハサルコトハ既ニ述ヘタル如シ左リトテ臣民ノ集合トシテハ代表セラルベキ權利利益ヲ有セサルナリ

以上ノ學說ハ要スルニ社會學政治學上ノ觀察トシテハ或ハ可ナルベケレトモ法學上ノ觀察トシテハ皆不完全ナリ是ニ於テカ最近二三ノ學者ハ議會ハ特ニ國民若クハ臣民ヲ代表スルカ爲メニ設ケラレタルニ非ス國家ノ立法及ヒ歲出入等ニ協贊スルカ爲メニ設ケラレタル機關ナリト論スルニ至レリ

(第四) 我國法トシテモ議會ハ天皇ニ對スル協贊機關ニシテ人民ノ代表機關ニ非ス議會議員ノ一部ハ人民ニ由リ選擧セラルルト雖モ選擧ハ人民カ其代表者ヲ選出スルニ非ス選擧人トシテ國家機關ノ組織ニ參與スル公職務ナリ此ノ如クシテ選擧セラルル議員ハ選擧人トノ間ニ何等ノ連絡ヲ有セス隨テ選擧人ノ爲メニ何等ノ拘束ヲ受クルヲ要セス唯國家機關ヲ組織スル一員トシテ專心ニ其職務ニ就キ國家ノ利益幸福ヲ圖ルノ外アルヘカラサルナリ

我國法上議會ノ地位ヲ論スル者或ハ議會ハ天皇ト共ニ國家直接ノ機關タリト稱シ或ハ天皇ニ對スル節制機關ナリト曰フ前說ニ關シテハ既ニ其不可ナルヲトヲ論シタルカ故ニ之ヲ略シ唯後說ニ付テ一言セントスル

天皇ニ對スル節制機關トハ何ソ即チ天皇ノ行爲ヲ制限スル機關ナリト云フノ意ナリトス此觀念ハ全ク歐洲諸國ノ主義ニ基キ天皇ト議會トハ相對立セル國家ノ機關ニシテ一方ヲ以テ一方ノ行爲ヲ制限スト云フノ觀念ナリ此觀念ヲ推ストキハ啻ニ議會ノミナラス其他ノ憲法上ノ機關モ亦天皇ノ行爲ヲ節制スルモノナリト謂フコトヲ得ヘシ例ヘハ議會カ立法ニ參與スルト同シク裁判所ハ司法權ノ行使ヲ掌リ以テ天皇ヲ節制スト云ヒ得ヘキナリ

此種ノ觀念ハ外國ノ主義トシテハ或ハ可ナランモ我國法トシテハ絕對ニ不可ナリ議會ハ天皇ニ由リ權限ヲ付與セラレタル一機關ナリ天皇ト相對シテ之ヲ節制スル機關ニ非サルコト蓋シ言ヲ俟タサルナリ

第二節　帝國議會ノ組織

我帝國議會ハ貴族院及ヒ衆議院ノ二部局ヨリ成ル即チ兩院制度ナリ外國ニ於

ラハ必スシモ兩院制ニ限ラス例ヘハ獨逸帝國ノ如キハ一院制タリ是レ蓋シ獨逸國ニ於ケル特種ノ事情ヨリ來ルモノトス其他ノ數國ニ於テ一院制ヲ採用スト雖モ多クノ國ハ兩院制度ヲ採ル

二院制ノ可否得失ハ一概ニ之ヲ論斷シ難シ今一般ニ二院制ノ利益トシテ認メラルル點ヲ擧クレハ(一)凡ソ事物ハ唯一面ノ觀察ヲ爲スヨリモ其兩端ヲ調和スルノ正確ナルニ如カサルヤ明カナリ故ニ同一ノ議案ニ就キ兩院別別ニ之ヲ研究スルハ甚タ必要ナリ(二)立法ノ作用ハ普通行政ノ如ク敏活ノ處置ヲ要スルニ非ス寧ロ丁寧審議以テ長久ノ計ヲ爲スヘキモノナリ然ルニ一院ノミニテハ間、多數ノ勢ニ驅ラレテ輕卒ノ決議ヲ爲ス恐アリ故ニ兩院制ヲ可トス(三)一院制ヲ採ルトキハ政府ハ議會ト衝突シ易ク其結果屢、累ヲ天皇ニマテ及ホスノ恐ナキニ非ス然ルニ二院制ヲ採ルトキハ兩院互ニ牽制シ政府ト議會トノ衝突モ自ラ少タ政府ノ瓦解議會ノ解散モ多少避クルコトヲ得ヘシ(四)何レノ國何レノ時代ニ於テモ國民ノ中ニ於テ財產門閥學藝等ニ因リ自ラ社會ノ上層ヲ組織スル者アリ此等ハ其社會ニ取リテ甚タ重要ナル者タルニ拘ハラス數ニ於テハ遙ク下

層ノ者ニ及ハス故ニ若シ一院制ヲ採ルトキハ此等ノ者ハ屢、多數ノ爲メニ壓セラレ意思發表ノ機會ヲ得サルノ恐ナキニ非ス故ニ別ニ一院ヲ設クルノ必要アリト論ス

右ニ述ヘタル所ハ一概ニ參同シ難キ點ナキニ非サレトモ之ヲ論スルニハ主トシテ立法論ニ亘ルヘキカ故ニ姑ク之ヲ略ス

二院制ニ於テハ議會ノ職權ハ兩院合同シテ行フヲ原則トス故ニ議案ノ成立スルニハ兩院ノ議カ一致スルヲ必要トス但議案ヲ成立セシメサルカ爲メニハ一院ノミニテ足レリトス

次ニ二院制ニ於テハ議會ノ開會、閉會、停會ハ總テ二院共同ニ行ハサルヘカラス但解散ノミハ衆議院ニ對シテ行ハレ貴族院ハ同時ニ停會ヲ命セラルルコトトス

右ノ如ク原則ハ兩院合同ニ在レトモ議會內部ニ於テハ各院ハ各別ニ獨立ノ合議體ヲ成シ獨立シテ議事ヲ行フモノトス兩院カ一所ニ會合スルハ唯儀式的ノ場合ニシテ例ヘハ開會及ヒ閉會ノ式ヲ行フトキノ如シ

尙ホ議會ノ議ニ付スベキ事件ニ關シテハ兩院對等ノ地位ニ立ツヲ通例トスレトモ唯豫算ハ例外トシテ先ツ衆議院ニ呈出スベキモノトスルノ制度アリ

第三節　帝國議會ノ種類

憲法第四十一條乃至第四十三條ニ依レハ先ツ一般規定トシテ議會ハ毎年之ヲ召集シ三箇月ヲ以テ會期トス但必要ノ場合ニハ勅命ニ由リ延長スルコトアルベシト定ム次ニ臨時緊急ノ必要アルトキハ常會ノ外臨時會ヲ召集ス而シテ其會期ハ勅命ニ由リ定ムベキモノトス之ニ依レハ先ツ議會ニ常會及ヒ臨時會ノ二種アリ而シテ其區別ノ要點ハ(一)通常會ハ普通三箇月ヲ會期トス然ルニ臨時會ノ會期ハ全ク勅命ニ由リテ定ムルコト(二)通常會ハ臨時緊急ノ必要ナクトモ毎年召集セサルヘカラス然ルニ臨時會ハ臨時緊急ノ場合ノミニ之ヲ召集スルコト是ナリ尙ホ議事規則ニ依レハ臨時會ノ場合ハ通常會ト異ナリ前會ノ議席及ヒ部屬ヲ繼續スルノ差アリトス

茲ニ問題トナルハ憲法第四十五條ナリ同條ニ依レハ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ五箇月以内ニ更ニ議會ヲ召集スベキモノトセリ而シテ本條ニ依リテ開ク所ノ議會ハ通常會ナリヤ又臨時會ナリヤ將タ又憲法上一種特別ノ議會ト認ムルヲ得ベキヤニ在リ

一説特別會説　此説ニ依レハ解散後ノ議會ハ毎年召集セラルルモノト異ナル故ニ通常會ト謂フヘカラス又臨時緊急ノ必要アリテ開カルルモノトモ異ナル故ニ臨時會トモ云ヒ難シ畢竟一種特別ノ議會ト看做シ其會期モ勅命ニ由リ定マルモノトスヘシト論ス

此説ニ對スル批難ノ點ヲ擧クレハ(一)通常會ト臨時會トハ憲法上明カニ規定セラルレトモ所謂特別會ナルモノヲ認メタル形跡ナシ(二)此説ハ解散後ノ議會ヲ臨時緊急ノ場合ニ非スト爲スト雖モ一方ヨリ論スレハ解散ト云フ臨時ノ事件ノ爲メニ急ニ五箇月以内ニ召集スベキモノナルカ故ニ即チ臨時緊急ノ必要ニ因リ開カルルモノト云ヒ得ヘシ(三)論者ハ此議會ノ會期ハ勅命ニ由リ定マルト云フト雖モ第四十五條ニハ會期ニ關シ何等ノ規定ナシ左リトテ臨時會ニ關スル會期ノ規定ハ特例ニ屬スルカ故ニ漫然之ヲ他ノ場合即チ論者ノ所謂特別會

ニ適用スヘカラサルヤ明カナリ已ムヲ得スシテ一般規定ニ依リ三箇月ヲ以テ會期トセサルヘカラサルコトト爲ルヘキカ兎ニ角論者ノ如ク勅命ニ由リ解散後議會ノ會期ヲ定ムヘシト云フハ論據ナキノ說ト謂フヘシ命ニ由リ解散以上特別會說ノ缺點ヲ指摘セリ之ヲ要スルニ憲法ハ通常會ト臨時會トノミヲ掲ケ特別會ナルモノヲ規定セス且解散後ノ議會ニ付テハ特ニ會期ノ規定ヲ設ケス此二點ヨリ推スモ解散後ノ議會ハ通常會若クハ臨時會ノ一種ト看做シ其規定ニ依ラシムルノ趣意ナルコトヲ測定シ得ヘシト考フ果シテ然ラハ之ヲ通常會トスヘキカ將タ臨時會ト爲スヘキカ

二　通常會說　此說ニ依レハ左ノ二點ヨリ立論ス(一)解散後ノ議會ハ臨時會ニ非ス蓋シ之ヲ臨時會ナリトスルニハ臨時緊急ノ必要ヲ認メサルヘカラス臨時緊急トハ憲法ノ豫想セサル場合ヲ謂フ然ルニ解散後ノ議會ハ憲法第四十五條ニ於テ之ヲ豫想ス故ニ臨時會ニ非ス(二)解散後ノ議會ハ通常會ノ性質ヲ具フ蓋シ通常會トハ憲法上ノ必要ニ因リ一定ノ時期ニ開會スヘキモノナリ解散後ノ議會モ憲法上ノ必要ニ因リ五箇月以內ニ開會スルモノナルカ故ニ此性質ヲ具

有スト云ヒ得ヘシト論ス

右第一ノ點ニ於テ憲法ノ豫想セサル場合ト云フハ如何ナル意義ナリヤ明カナラス若シ臨時會ヲ以テ豫想外ノ場合トセハ解散後ノ議會モ亦豫想外ト云ヒ得ヘシ何トナレハ解散ハ何レノ時ニ起ルカ全ク豫想シ難キコト恰モ臨時緊急事件カ何レノ日ニ起ルカ測ルヘカラサルト同シケレハナリ若シ又解散後ノ議會ヲ憲法カ豫想スト云ハンカ臨時會モ亦憲法カ豫メ想像シテ規定シタリト謂フコトヲ得ヘシ畢竟豫想ノ意義ヲ如何ニ定ムルモ解散後ノ議會ト臨時會トヲ區別スル明白ナル標準ト爲スヘカラス次ニ第二ノ點ニ於テ解散後ノ議會ハ憲法上ノ必要ニ因リ一定ノ時期ニ開クカ故ニ通常會ナリト云フト雖モ(一)憲法上ノ必要トハ通常會ニノミ謂フヘキニ非ス臨時會モ亦此必要ニ因リ開會スルモノナリ(二)解散後ノ議會ニ付テハ唯解散ヨリ五箇月以內ト定メタルノミニシテ解散其レ自身カ何レノ時ニ起ルヤ測ルヘカラサルカ故ニ之ヲ以テ一定ノ時期ニ開會スルモノナリト謂フヘカラス言ヲ換フレハ通常會ノ如ク毎年開會ト定マレルモノニ非ス故ニ此點ヲ以テ通常會ト同一ナリト論スルハ大早計ナル論法ト

謂ハサルヲ得ス。

三、臨時會說　憲法第四十五條ハ第四十三條ノ一場合トシテ規定シタルモノナリ何トナレハ(一)解散後ノ議會ハ臨時會ト同シク解散後五箇月以內ニ召集スヘキ臨時緊急ノ必要アリ(二)解散後ノ議會ニ付テ第四十五條ニ會期ヲ規定セサルハ第四十三條ノ一場合ト看做シ第四十三條ノ規定ヲ適用セシムル精神ナリト論ス

此說ハ是マテ述ヘ來レルモノノ中ニ於テ缺點最モ尠シ然レトモ唯此說ニ依レハ一年內ニ必要ナクシテ屢議會ヲ召集セサルヘカラサル場合ヲ生ス例ヘハ前年ヨリ引續キタル議會ヲ解散シ五箇月以內ニ臨時會ヲ召集シ更ニ又第四十一條ニ依リ其年內ニ少クトモ一度ハ通常會ヲ開カサルヘカラサルコトヲ爲リ徒ニ煩雜ヲ極メ實際上甚タ不都合ナルヲ免レサル場合アルヘシトノ批難アリ

四、解散後ノ議會ハ通常會若クハ臨時會ナリトスル說　此說ニモ數種アリ例ヘハ「ボルシハック」等ノ如ク豫算ヲ議スルトキハ通常會ニシテ然ラサレハ臨時會ナリトスル說アリト雖モ我憲法ニ於テハ必スシモ此區別ヲ認メサルカ故ニ省略シ唯我國學者ノ中ニ於テ有力ナル一說ヲ揭ケン曰ク解散後五箇月內ニ通常會ヲ開クヘキ定期カ到著スルトキハ通常會トシテ開會スヘシ之ニ反シテ五箇月內ニ此定期カ到著セサレハ通常會ヲ待ツ能ハサルカ故ニ臨時會トシテ開會セサルヘカラス畢竟一方ニ偏シテ論スルヲ得スト

此說ハ甚タ巧妙ナリ然レトモ先ツ其缺點ヲ擧クレハ(一)論者ハ通常會ヲ開クヘキ定期ト云フト雖モ憲法ハ唯每年召集ヲ定メタルノミ何月又ハ何日ニ開會スト定メサルカ故ニ憲法上定期ト稱スヘキモノナシ左レハ之ニ據リテ通常會タルト臨時會タルトノ區別ヲ爲スコト能ハス(二)假モ慣行ニ依リ定期アリトシテ論スルモ定期到著ノ時ヲ以テ區別スルトキハ例ヘハ其時ヨリ僅ニ前ナレハ臨時會ニシテ其時來レハ最早通常會タリト云フノ奇ナル論結ト爲ルヘシ(三)前述ノ通常會說及ヒ臨時會說ニ對スル批難ハ此說モ應用セラルルモノアリ

右ハ第四說ノ缺點ナリ之ニ反シテ此說ノ長所ハ以上ノ諸說ノ如ク先ツ別ニ解散後ノ議會ヲ想像シ此議會ハ通常會ノ性質アリヤ又臨時會ノ性質アリヤヲ論スルノ論法ニ依ラス唯解散後ニ通常會ヲ開クヘキカ臨時會ヲ開クヘキカノ問

題ト爲セルノ點ニ在リトス然ルトモ此說ノ缺點即チ定期ノ到著ヲ以テ議論ヲ分ツハ前述ノ如ク贊成スルコト能ハス又憲法ハ解散後五箇月以內ニ議會ヲ召集ストノミ規定シ通常會トシテ開クカ臨時會トシテ開クカハ國家ノ意思ニ一任シタリト云ヒ得ヘシト考フ何トナレハ先ツ通常會トシテ開クコトハ勿論差支ナシ次ニ臨時會トシテ開クモ亦差支ナシ何トナレハ此場合ニハ臨時緊急ノ必要アリトモ云ヒ得ルコトハ前ニ述ヘタル如クナレハナリ

以上議會ノ種類ヲ說明セリ終ニ問題ト爲ルハ勅命ヲ以テ臨時會ノ會期ヲ定メタル場合ニ必要ニ因リ更ニ勅命ヲ以テ其會期ヲ短縮シ又ハ延長スルコトヲ得ヘキヤ否ヤニ在リ蓋シ臨時會ノ會期ヲ定ムルハ總テ天皇ノ認定ニ任スノ趣意ナルカ故ニ之ヨリ推シテ一旦定メタル會期ト雖モ必要アレハ之ヲ延長シ若クハ短縮シ得ト論シテ差支ナシト考フ

第四節　帝國議會ノ開始、停止及ヒ終了

第一款　帝國議會ノ開始

帝國議會ノ開始トハ國法上議會トシテ成立スルヲ謂フ蓋シ議會ノ成立ハ天皇大權ノ作用トシテ開會ヲ命セラルルニ由ル議院法ニ依レハ天皇ハ先ツ議會ヲ召集ス嚴格ニ解スレハ此場合ハ議會ヲ召集スルニ非ス議會ノ議員ヲ召集スルナリ故ニ召集アリトモ議會ハ未タ成立シタルニ非ス次ニ議員ハ召集ニ因リテ集會シ議長副議長及ヒ各部屬ヲ構成シ此ニ各議院ノ成立ヲ見ル但議會トシテハ尙ホ未タ成立セス終ニ勅命ニ由リ開會ヲ命セラルルニ至リ始メテ議會トシテ成立スルモノトス尤モ實際議事ヲ始ムルト否トハ成立ニ關係ナキモノトス」

先ツ問題ト爲ルヘキハ議會召集ノ後何レノ日ニ開會スヘキヤ否ヤノ點ナリ之ニ關シテハ種種ノ說アリ

(甲) 憲法ニ於テ議會ハ每年召集スヘシト認定スレトモ開會ニ關シテハ別ニ規定ナシ唯天皇カ開會ヲ命スト定メタルノミ故ニ開會ハ全ク天皇任意ノ作用ニ

屬スト看サルヘカラスト論ス然レトモ此說ハ憲法ノ精神ニ適合セサルナリ何トナレハ(一)憲法ニ天皇開會ヲ命ストアルハ必ス開會ヲ命セラルヘキコトヲ宣言シタルモノニシテ議會ヲ召集シタルニ拘ハラス之ヲ開クト否トハ任意ナリト云フノ趣意ニ非ス(二)若シ召集シタル後開會セストモ可ナリトセンカ次年ニ至リ更ニ召集スルハ何等ノ意味ナキコトト爲ルヘシ是レ憲法カ毎年召集スヘシト定メタル趣意ト符合セス

(乙)開會ノ時期ニ關シテハ何等ノ制限ナキカ故ニ次年ノ議會召集前ニ閉會スルヲ得ルノ期間ヲ見積リテ開會スレハ毫モ支障アルコトナシト論ス此說ニ依レハ今年議會ヲ召集シタルニ拘ハラス翌年ノ終ニ開會スルモ差支ナシトス此ノ如キハ單ニ理屈ヲ弄スルノミニシテ憲法ノ精神ニ合セリト謂フヘカラス

(丙)議會ヲ召集スレハ直チニ開會スヘシト論ス此論ハ一理アルニ似タリト雖モ餘リニ嚴格ニ過キ所謂杓子定規ノ批難ヲ免レス蓋シ已ムヲ得サル場合ニハ召集ト開會トノ間ニ多少ノ時日ヲ置クモ憲法ノ規定ニ反スルコトナキノミナラス甚タ便宜ニ合スルモノナリ

ノ商取引ヲ爲シタルカ如キ場合ニ於テハ法人ハ其責ニ任スルコトナシ是レ法人ハ其目的ノ範圍內ニ於テ權利ヲ有シ義務ヲ負フモノナルヲ以テ法人ノ代理人ト取引スル者ハ其取引ハ法人ノ目的ノ範圍內ノ行爲ナルヤ否ヤヲ審査セサルヘカラス若シ其取引カ法人ノ目的ノ範圍外ナルコトヲ知リテ取引スルトキハ其行爲ハ法人ニ對抗スルコトヲ得サルモノナルコトヲ豫期スルモノナルカ故ニ之ニ伴フ損害アリタリトスルモ法人ヲシテ其責ニ任セシムヘキ理由ナシ若シ又其取引ハ法人ノ目的ノ範圍外ナルコトヲ知ラスシテ取引シタル者アリトセハ相手方ハ之ヲ知ラサルニ付キ過失ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス過失アル相手方ノ利益ヲ保護スルカ爲メ其行爲ニ關係ナキ法人ヲシテ其責ニ任セシムヘキ理由ナキヲ以テナリ而シテ此場合ニ於ケル不法行爲ノ責任ハ之ヲ爲シタル者ニ屬スルハ當然ナリト雖モ其行爲ヲ爲スコトヲ議決シタル社員及ヒ理事アリタルトキハ連帶シテ其責ニ任セサルヘカラス(第四四條第二項)

法律ニハ理事ノ資格ニ關スル制限ナキヲ以テ社員タルト否トヲ問ハス理事トシテ選任スルコトヲ得ヘク其選任ハ裁判所ニ於テ執行スル場合ヲ除クノ外定

款又ハ寄附行爲ニ定メタル方法ニ依ラシメザルベカラス又理事カ死亡退任等ノ事由ニ因リ缺員ト爲リ法人ノ業務又執行スル者ナキカ爲メ事務ノ滯留又泰ル損害ヲ生スル虞アルコトナシトセス此場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ假理事ヲ選任シ之ヲシテ法人ノ事務ヲ執行セシムルコトヲ得(第五六條)

第二項　監事

法人ハ定款寄附行爲又ハ總會ノ決議ヲ以テ監事ナル機關ヲ設クルコトヲ得此機關ハ理事ノ業務執行ノ當否ヲ監査スルモノニシテ理事ニ代リ法人ノ業務ヲ執行スル權限ヲ有セス蓋シ理事カ法令又ハ定款寄附行爲ノ規定ニ從ヒ正當ニ其業務ヲ執行スルヤ否ヤハ官廳ニ於テ之ヲ監督スト雖モ直接ニ理事ノ行動ニ對シ十分ノ監督ヲ付キ周到ナル監督ヲ期スルモ得ヘカラス故ニ理事ノ行動ニ對シ十分ノ監督ヲ爲ナントセハ法人ノ内部ニ於テ之ヲ監督スヘキ機關ヲ設置スル必要アリ然レトモ資産モ少ク業務モ繁劇ナラサル法人ニ在リテハ特別ノ監督機關ヲ設ケ必

ハ管ニ法人ノ經費ヲ增加スルノミニシテ其必要ナキコトアルヘキヲ以テ法律ハ監事ヲ設クルト否トハ全ク法人ノ任意ナリトセリ

監事ハ一名ヲ置クヘキカ又ハ數名ヲ置クヘキカハ亦法人ノ自由ニ決定スヘキ事項ナリ而シテ監事ノ權限ハ限定的ニシテ法人ノ財産及ヒ理事ノ業務執行ノ狀況ヲ監査シ不整理、不適法ノ事跡アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ總會又ハ主務官廳ニ報告シ之カ報告ヲ爲ス爲メ必要アルトキハ總會ヲ招集スルニ在リ此權限ハ定款寄附行爲又ハ總會ノ決議ニ依リテ之ヲ制限シ又ハ擴張スルコトヲ許サス

第三項　總會

社團法人ハ上述ノ機關ノ外尚ホ總會ナル機關ヲ有ス總會ハ法令ノ範圍内ニ於テ法人ニ關スル重要ノ事項ヲ議決スル機關ニシテ法人ヲ支配スルモノナリ其決議ハ理事ノ行爲ヲ拘束スルノミナラス法人ノ目的ヲ變更シ又ハ法人ヲ解散セシムルコトヲ得ヘク定款ヲ以テ法人ノ業務ヲ執行スル者ニ委任セル事項ヲ

除クノ外法人ノ事務ハ總テ總會ニ於テ議決スヘキモノタルヲ
第一ハ總會ノ招集
總會ハ理事又ハ監事ノ招集ニ依リテ開會セラルヘキモノニシテ招集ナキニ拘
ハラス自ラ開會シテ議決ヲ爲ス權限ヲ有セス理事又ハ監事ハ必要ト認メタル
トキハ何時ニテモ總會ヲ招集スルコトヲ得ヘシ加之總社員ノ五分ノ一以上ヨ
リ總會招集ノ目的タル事項及ヒ理由ヲ示シテ請求シタルトキハ理事ハ總會ヲ
招集セサルヘカラス理事カ之ヲ拒ミタルトキハ裁判ニ依リテ之ヲ理事ニ命ス
ルコトヲ得ヘシ理事カ尚ホ此命ニ從ハサルトキハ判決ヲ以テ理事ノ意思表示
ト同一ノ效果ヲ生セシムルコトヲ得清算人ハ清算ノ職務ヲ執行スルニ當リ總
會ヲ招集スルコトヲ得ヘキヤ清算人ノ選任セラルル場合ハ常ニ法人ノ解散セ
ルトキナリト雖モ法人ハ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テ尚ホ存續スルモノナルカ
故ニ清算人カ清算事務ヲ爲スニ當リ必要ト認メタルトキハ何時ニテモ總會ヲ
招集スルコトヲ得ヘシト主張スル者アルヘシト雖モ清算人ハ法律ノ規定ニ依
リ清算事務ヲ執行スヘキモノニシテ總會ノ議決ニ從フ義務ナキノミナラス其

議決ヲ執行スヘキ機關ニ非サルヲ以テ總會ノ招集ハ清算人ノ職務ヲ行フニ必
要ナル行爲ト謂フコトヲ得ス隨テ清算人ハ總會招集ノ權限ナキモノト解釋ス
ルヲ至當トス
總會ノ招集ハ少クトモ五日前ニ決議スヘキ事項ヲ示シテ定款ニ定メタル方法
ニ從ヒテ之ヲ爲サナルヘカラス是レ各社員ヲシテ決議スヘキ事項ニ付キ熟考
ヲ爲スニ必要ナル日時ヲ與フルノミナラス豫メ集合スヘキ期日ヲ知ラシムル
ハ出席ヲ容易ナラシムルニ缺クヘカラサル方法ナレハナリ
第二　總會ノ種類
總會ニハ通常ト臨時トノ二種アリ通常總會ハ少クトモ毎年一回之ヲ開クヘキ
モノニシテ理事ニ於テ之ヲ招集スヘキ義務ヲ有ス蓋シ社團法人ノ社員ヲシテ
理事ノ業務執行ヲ監督セシムルニハ少クトモ毎年一回ハ社員ヲ會合セシメ法
人ノ事業及ヒ財產ノ狀況ヲ知ラシメ役員ノ勤怠功績過失ヲ知ルノ機會ヲ與フ
ル必要アルヲ以テナリ
臨時總會ハ時時ノ必要ニ應シ理事又ハ監事ニ依リテ招集セラルルモノニシテ

之ヲ招集スヘキ義務ヲ負フ者ナシ唯總社員ノ五分ノ一以上又ハ定款ニ規定セル定數ノ社員ヨリ適法ノ手續ニ依リテ之カ招集ヲ請求シタルトキハ理事ニ於テ招集セサルヘカラス獨逸民法ニ於テハ社員ノ十分ノ一以上ヨリ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得ベシトセリ(第六一條獨逸民法第三七條)

第三　議決ノ方法

總會ニ於テハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外豫メ通知シタル事項ニ限リテ議決スルコトヲ得ヘキノミ蓋シ通知以後ノ事項ト雖モ便宜其會議ニ引續キ議決スルコトヲ得ストセハ時トシテ不便宜不經濟ノ傾ナキニシモ非ス然レトモ若シ自由ニ之ヲ爲スコトヲ得ヘシトセハ會議ノ目的ヲ示シテ招集スヘキ理由ト牴觸スルノミナラス理事ハ之ヲ利用シテ奸手段ヲ施シ不當ノ議決ヲ得若クハ理事派ニ屬スル社員カ多數出席シタルトキハ其機會ヲ利用シテ重要ノ事項ヲ議決セシメ法人ノ利益ヲ害スルカ如キ虞ナシトセス故ニ法律ハ便益ト弊害トヲ比較シ原則トシテハ豫メ通知セサル事項ハ議決スルコトヲ得ストセリ(第六四條)

社團法人ノ各社員ハ總會ニ出席シテ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得ルモ其決議スヘキ事項カ社團法人ト或社員トノ間ニ成立シ若クハ成立スヘキ法律行爲又ハ訴訟行爲ニ關スルトキ例ヘハ或社員ヲ除名シ又ハ或社員ニ贈與ヲ爲スカ如キ若クハ或社員ニ對シテ訴ヲ提起スルカ如キ此等ノ場合ニ於テハ其社員ハ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得ス是レ或事項ニ付キ利害關係ヲ有スル者ハ自己ノ利益ヲ謀ランカ爲メ往往偏頗ナル判斷ヲ下スノ弊ナシトセサレハナリ而シテ各社員ノ有スル議決權ハ平等ナルコトヲ原則トス蓋シ株式會社ノ如キ資本ニ依リテ事業ヲ經營シ利益ノ取得ヲ以テ目的トスルモノハ其利益ヲ保護スルカ爲メ出資ノ多少ニ依リ表決權ニ差等ヲ設タル必要アリト雖モ公益ニ關スル社團法人ノ設立ハ直接ニ社員ノ利益ヲ目的トスルモノニ非ス社員各自カ公益ノ增進ヲ期スル點ニ於テハ出資ノ多少ニ依リテ差違ナキヲ以テナリ

總會ノ決議ハ法律ニ特別ノ規定ナキヲ以テ出席社員ノ多數決ニ依ルヘキモノナリ然レトモ定款ノ變更法人ノ解散ノ決議ハ總社員ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ要ス(第三八條第六九條)其以外ノ事項ヲ議決スルニ當リテハ出席社員ノ多數ナ

ルト否ト其過半數ノ同意ヲ得ルト否トハ決議ノ效力ニ關係ナシ若シ出席者二人ナルトキハ其意思表示ヲ以テ總會ノ決議ト謂フコトヲ得ヘシ又或事情ノ爲メ總會ニ出席スルコトヲ得サル社員ハ議決スヘキ事項ニ付キ意見アルニ拘ハラス出席セサルノ故ヲ以テ之ヲ表示スルコトヲ得ス若クハ代理人ヲシテ之ヲ陳述セシムルコトヲ得ストセハ社員各自ノ意見ヲ徵シ完全ナル決議ヲ爲サシメントスル趣旨ヲ貫徹スルコトヲ得ス却テ不利不便鮮カラサルカ故ニ缺席者ト雖モ文書ヲ以テ又ハ代理人ニ依リテ表決權ヲ行フコトヲ得ヘキモノトセリ

（第六五條）若シ總社員カ或事項ニ付キ文書ヲ以テ同意ヲ表示セハ總會ノ招集ナシト雖モ其決議ハ有效ナルヤ否ヤ蓋シ總會ヲ招集セスシテ書面ノミヲ以テ總社員ノ同意ヲ得タル事項ハ總會ノ決議ニ非ス總會ノ決議ニ非サル意思表示ニ對シ之ト同一ノ效力ヲ有セシムルハ法律ノ特別ノ規定ヲ要スルモノナルカ故ニ我民法ノ解釋トシテハ此方法ニ依ル總社員ノ同意ハ總會ノ決議ト同一ノ效力ヲ有スルモノニ非ス（獨逸民法第三二條參照）

等ハ相隣者ノ共有ヲ認ムルヲ例トシ却テ其物ヲ分割スルハ相隣者雙方ノ利益ニ非サルナリ故ニ法律ハ亦此等ノ場合ニハ分割ヲ認メサルモノトス（第二五七條）

終ニ共有物ノ分割ノ手續ニ付テ一言セン共有者カ共有物ノ分割ヲ求メタルトキハ共有者ノ協議ニ依リ或ハ現物ニ付テ分割ヲ爲シ或ハ其價額ニ付テ分割スルモノトス若シ當事者ノ協議調ハサルトキハ裁判所ニ其分割ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス（第二五八條此場合ニ裁判所ハ現物ノ分割ヲ爲シ得ルトキハ現物ニ付テ分割ヲ爲スモノトス之ニ反シ現物ノ分割ヲ爲スコト能ハサルトキ若クハ分割ニ因リ著シク其價格ヲ損スルノ虞アルトキハ裁判所ハ其目的物ヲ競賣シ之ニ因リテ得タル賣得金ニ付テ分割ヲ爲スモノトス（第二五八條第二項）裁判所カ共有物ヲ分割スルノ手續ハ何ニ依ルヘキカ獨逸國ニ於テハ此手續ヲ以テ非訟事件トシ訴訟手續ニ依ラス別ニ共有物分割ノ手續ヲ定メ之ニ據リタリ（「デルンブルヒ」近世羅馬法論第二卷第百九十七章第四六二頁參照）蓋シ共有物ノ分割ハ共有權ヲ終了セシムル爲メニ行フ所ノ新ナル處分ニシテ之ニ因リ共有

若ハ新ニ權利ヲ取得スルモノトス故ニ普通ノ爭訟ノ如ク權利ヲ認定スルモノトハ大ニ其性質ヲ異ニス隨テ之ニ關シテハ普通ノ訴訟手續ニ依ラス別ニ其手續ヲ設クルヲ穩當トス我民法ノ立法ノ趣旨ハ亦此主義ヲ採レルモノノ如シト雖モ現行法ニ於テハ未タ共有物分割ノ手續ニ付テハ何等別段ノ規定ヲ設ケサリシヲ以テ之ニ關シテハ一般ノ訴訟手續ニ依リ之ヲ請求スルノ外途ナシ但之ヲ普通ノ訴訟事件トスルトキハ其性質ノ稍ヤ異ナルモノアルヲ以テ實際ニ於テハ種種ノ困難ナル問題ヲ生スヘシ例ヘハ現物ノ分割ヲ裁判所ニ請求スルニ當リ當事者ハ裁判所ニ對シテ如何ナル申立ヲ爲スコトヲ得ルヤ又價額ノ分割ヲ求ムルニ當リテハ如何ナル申立ヲ爲スヘキカ又其目的物ノ競賣ハ如何ニシテ之ヲ爲スヘキヤ等ノ問題是ナリ此等ハ皆法律ノ不備ヨリ生スル結果ニシテ諸君ハ訴訟法ヲ研究セラルルニ當リテハ十分此點ニ留意セラレンコトヲ望ム

第四編　入會權

第一章　入會權ノ意義

入會權ハ我國ニ於ケル古來存スル一種ノ舊慣上ノ權利ナリ隨テ其性質甚タ不明ニシテ或場合ニハ共有權ニ類スルコトアリ或場合ニハ地役權ノ性質ヲ帶フルコトアリ或場合ニハ債權ノ性質ヲ有スルコトアリ又或場合ニハ一種特別ノ財產權ト認ムヘキモノアリテ其性質一定セス是レ一ハ入會ナル文字ノ用法ハ從來一定スル所ナク地方ニ於テ便宜之ヲ慣用シタルト一ハ入會權ハ地方ニ依リ其特別ノ必要ニ從ヒ隨時其慣習ヲ成セシトニ由ルモノナルヘシ故ニ我民法ハ入會權ニ付テハ其性質ト起源トニ鑑ミ全ク地方ノ慣習ニ放任スルノ主義ヲ採リ入會權ノ性質範圍效力ハ總テ舊慣ニ從フコトトセリ而シテ其舊慣ニ反セサル限ハ共有權ノ性質ヲ有スルモノハ共有權ノ規定ヲ適用シ地役權ノ性質ヲ有スルモノハ地役權ノ規定ニ依リ債權ノ性質ヲ有スルモノハ債權ノ規定ニ從フモノトセリ故ニ入會權トハ我國ニ古來存スル一種舊慣上ノ財產權ニシテ其內容ハ總テ慣習ニ依リ定マルモノト謂フヘシ

上述ノ如ク入會權ハ地方慣習ニ依リ發達シ其權利ノ性質甚タ不明ナルモ概シテ地役權ノ性質ヲ有スルモノ通例ニシテ共有權ノ性質ヲ有スルモノ之ニ亞クモノノ如シ故ニ入會權ハ一見スレハ物權ノ性質ヲ有スルモノノ如キモ其實頗ル錯雜セル意義ヲ有シ單ニ一ノ權利ヲ表彰セルモノニ非ス或ハ地役權ヲ指スコトアリ或ハ共有權ヲ意味スルコトアリ或ハ單純ノ債權ヲ指スコトアリ隨テ入會權ハ一ノ包括名稱ニシテ一箇特有ノ權利ヲ謂フニ非ス其共有權ノ性質ヲ有スルモノ若クハ地役權ノ性質ヲ有スルモノハ物權ナリト謂フヘク其特別ナル財產權ノ性質ヲ有スルモノハ一ノ財產權ニシテ其債權ノ性質ヲ有スルモノハ亦債權ナリト謂フヘシ之ヲ要スルニ入會權ハ財產權ニ屬スル種種ノ權利ヲ包含スル一種ノ包括名稱ナリ

第三章　入會權ノ範圍

入會權ハ從來ノ慣例ヲ觀ルニ森林及ヒ原野ヲ目的トスル權利ナリ其物權ノ性質ヲ有スルモノハ直接ニ森林、原野ノ上ニ行ハレ其特別ノ財產權若クハ債權ノ性質ヲ有スト認ムルモノモ亦森林、原野ヲ目的トス故ニ森林、原野ヲ目的トスルコトハ實ニ入會權ノ特性ニシテ之ニ依リテ他ノ權利ト區別スルコトヲ得ヘシ或ハ水面ニ付テ入會權ヲ認ムルノ慣例ナキニシモ非ス例ヘハ海上ニ於ケル漁業ノ入會ノ如キ是ナリ然レトモ此等ノ權利ハ民法上ノ財產權ニ非サルハ明カナルモ其慣習ハ頗ル不明ニシテ未タ之ニ權利ノ名稱ヲ付與スルノ價値アルヤハ確定シ難キヲ以テ我民法ハ所謂入會權ノ下ニハ此ノ如キ種類ノ權利ヲ包含セシメスシテ單ニ陸上ノ入會權ニ限レリ入會權ハ此ノ如ク必ス森林、原野ヲ目的トスル權利ナルモ其權利ノ範圍ニ至リテハ亦種種アリ或ハ森林、原野ニ關シテ處分權ヲ有スルコトアリ或ハ單ニ使用權ノミヲ認ムルコトアリ而シテ使用權ヲ認ムル場合ニ於テモ或ハ其主產物ニ及フモノアリ或ハ其副產物ニ止マルモノアリ隨テ其範圍一定セス是レ地方ノ慣習ト其必要トニ依リ異ナルモノニシテ其範圍ノ大小ハ自ラ其權利ノ性質ヲモ異ニセサルヘカラサルニ至ル即チ其範圍ノ最モ廣キモノハ共有權ノ性質ヲ有シ此場合ニハ森林、原野ニ對シテ一切ノ處分、使用、收益ノ權利ヲ有ス之ニ次クモノハ地役權ノ性質ヲ有スル場合ニ

シテ森林、原野ニ付テ永タ使用權ヲ有スルヲ通例トス而シテ其使用權ハ概ネ副産物ニ止マルモ時トシテハ主産物ニ及フモノアリ債權ノ性質ヲ有スル場合ハ其範圍最モ狹小ニシテ單ニ一定ノ時期ニ於テ其使用ヲ請求シ得ルモノニ過キサルナリ

第四章　地役權ノ性質ヲ有スル入會權

第一節　意義

入會權ハ地役權ノ性質ヲ有スルコトヲ常態トス此種類ノ權利ハ歐洲ニ於テモ存在ス即チ獨逸ニ於テハ之ヲ「ワルドセルヴィトット」(Waldservitut)若クハ「ワイデセルヴィトット」(Weideservitut)ト稱シ重要ナル地役權ノ一種トセリ此權利ハ羅馬法ニ於テハ之ヲ公認セサリシカ獨逸ニ於テハ慣習上大ニ發達セリ近世ニ至リテハ森林、經濟上不利益ナリトシテ漸タ之ニ制限ヲ加フルノ風潮ヲ生スルニ至ルリ我國ニ於テハ此權利ハ數百年前ヨリ各地方ニ存在シ其起源ヲ審ニセスト雖モ概ネ地方ノ農家經濟ノ必要ニ迫マラレ漸次自然ニ發達シタル慣習上ノ權利

ニシテ頗ル須要ナル權利ニ屬ス近來ニ至リテハ此權利ニ付テ契約ヲ以テ其內容ヲ確定スルモノ尠カラス畢竟此種ノ權利ハ他人ノ所有ニ屬スル森林、原野ノ上ニ存スル一種ノ使用權ニシテ字、大字若クハ字ノ集合又ハ町村等ノ特定ノ地域ノ便益ノ爲メニ存スル權利ナリ而シテ其目的ハ森林、原野ニ對シテ主トシテ其副産物ヲ採取スルニ在リ所謂副産物ノ採取トハ下草ノ刈取、落葉ノ拾取又ハ放牧等ヲ謂フ蓋シ此等ノ目的ノ爲メニ森林、原野ヲ利用スルハ地方ニ於テ農家經濟上大ニ之ヲ必要トシ若シ之ヲ禁止スルトキハ直チニ地方農民ノ日常生活ニ支障ヲ生スルヲ以テ漸次ニ森林、原野ノ上ニ發達セシヌタルモノニシテ其初ハ全ク地方人民ノ侵略ニ出デタルコトナリ或ハ森林、原野ノ所有者ノ恩惠ニ出デタルコトアリ或ハ地方人民カ一種ノ善意占有ニ屬シタルモノ遂ニ發達シテ一箇ノ權利ト爲リタルモノアリ地方ニ在リテハ中等以下ノ農民ニハ最モ必要ノ權利ニシテ彼等ハ之ニ依リテ森林、原野ヲ利用シテ自家ノ經濟ヲ維持スルモノナリ

第二節　性質

此種ノ入會權ハ一定ノ地域ノ便益ノ爲メニ存スル權利ナリ即チ一定ノ地域トハ字大字若クハ字ノ集合又ハ町村等ノ謂ニシテ此等ノ部落ノ爲メニ森林原野ヲ使用スルコトヲ目的トシ其部落ニ住スル者ハ一般ニ其利益ヲ享受スルヲ原則トス而シテ此入會權ハ(一)特ニ其期間ノ定アルモノノ外ハ入會權ニ依リテ利益ヲ受クル土地ノ存續スル限リ繼續スルヲ常トス(二)此入會權ハ之ニ依リテ利益ヲ受クル土地ヲ離レテ單獨ニ成立スルコトヲ得ス(三)此入會權ニ依リ利益ヲ受クル土地ニ住居スル者ハ當然ニ入會權ノ利益ヲ受クルコトヲ原則トス但特ニ條件ヲ附加スルコトヲ妨ケス(四)此入會權ハ其利益ヲ受クル土地ニ住居スル者ノ變動ニ付テハ何等ノ影響ヲ受ケサルヲ原則トス故ニ此種ノ入會權ハ純然タル地役權ニ屬スト謂フヘク隨テ民法中地役權ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ルモノナリ然レトモ民法ハ入會權ニ付テハ深ク其慣習ヲ重シタルカ爲メ入會權カ地役權ノ性質ヲ有スルトキト雖モ必スシモ地役權ノ規定ニ依ルコトヲ要セス反對ノ慣習アルトキハ尙ホ之ニ依ラシムルコトヲ妨ケストセリ是レ民法カ此種ノ入會權ニ付テハ地役權ノ規定ヲ準用スト規定シタル所以ナリ(第二九四條)入會權ノ利益ヲ受クル土地ハ或ハ町村ノ如ク法人ヲ成スモノアリ或ハ字大字又ハ字ノ集合等ノ如ク未タ法人ヲ形成セサル部落タルコトアリ後ノ場合ニ於テハ部落ハ單一ノ集合體ニ過キサルヲ以テ之ヲ入會權ノ主體ト看ルコトヲ料ス隨テ此場合ニハ此入會權ハ地役權ニ酷似スル一種ノ財產權ト謂ハサルヘカラス

第三節　範圍

此種ノ入會權ハ概シテ森林原野ニ對シテ其副產物ヲ採取スル權利タルコトヲ常トス故ニ其權利ノ範圍ハ種種アリテ地方ニ依リ慣習ヲ異ニシ亦同一ナラサルモ概ネ左ノ範圍ヲ超エサルモノトス

一　秣ノ刈取

二　拾薪

三　肥料ノ採取

四　放牧

右ノ一、二、三ハ合シテ入會權ノ目的ト爲ルコト多シ唯リ四ノ放牧ニ至リテハ別ニ特立スルヲ例トス歐洲ニ於テハ此種ノ入會權ノ範圍一層廣ク之ヲ分チテ二種類トス一ハ森林ノ用材ニ對スル入會權ニシテ一ハ森林ノ副產物ニ對スル入會權トス前者ハ更ニ細別シテ二トス一ハ森林ニ付テ建築用木材ヲ採伐スル權利ニシテ一ハ薪炭用木材ヲ採取スル權利ナリ我國ニ於テハ地役權ヲ有スル入會權ハ概シテ森林ノ副產物ヲ採取スルニ止マルモノニシテ木材ニ付テハ薪ノ採伐若クハ枯損木ノ採取ニ止マル然レトモ地方ニ依リ往往立木ノ伐採ノ權利ヲ認ムルコトアリ又現行法ノ規定ニ於テモ將來地役權ノ性質ヲ有スル入會權ノ一種トシテ立木ノ伐採權ヲ認ムルモ亦自由ニシテ決シテ法律ノ禁スル所ニ非ナルナリ

以上ノ次第ナルヲ以テ地役權ノ性質ヲ有スル入會權ハ其目的ヨリ之ヲ觀察スレハ左ノ如ク分類スルコトヲ得

第一　肥料採取ノ權　是レ森林原野ニ付キ下草落葉等ヲ採取シテ田畑ノ肥料ノ用ニ供スルノ權ヲ謂フモノニシテ最モ重要ナル權利ナリ然レトモ其行使ヲ誤ルトキハ之カ爲メニ森林ノ營養力ヲ害シ森林ノ經營及ヒ保存ニ妨害ヲ生スル虞アリ是ヲ以テ歐洲ニ於テハ森林維持ノ爲メニ此權利ニ付テハ種種ノ制限ヲ設ケリ我國ニ於テモ慣習上種種ノ制限アリ即チ(一)入林ノ時期及ヒ回數ヲ定ムルコト(二)入林ノ區域ヲ確定スルコト(三)携帶ノ用具ヲ限定スルコト(四)採取ノ分量ヲ制限スルコトノ如キ是ナリ而シテ入林ノ時期及ヒ回數ニ付テハ地方ニ依リ一定セス概シテ其時期ヲ稱シテ口開又ハ鎌開若クハ山開ト曰ヒ其時期盡クレハ之ヲ山止若クハ口止ト曰フ山止若クハ口止以後ハ其入林ヲ禁ス此禁ニ反スルトキハ一定ノ償金ヲ出サシメ場合ニ依リテハ其權利ヲ消滅セシムルコトアリ

第二　採薪ノ權　是レ森林ニ付テ枯損木又ハ下草ヲ採リテ各人ノ燃料ニ供スルノ權利ニシテ是レ亦地方農家ニ有用ノ權利ナリ唯此權利ハ動モスレハ盜伐ヲ生スル虞アルヲ以テ其權利ノ行使ニ付テハ一定ノ分量ヲ設ケ之ニ嚴重ナル

制限ヲ附スルコトトセリ即チ斧鉞ヲ携ヘルコトヲ許サス又荷籠ノ携用ヲ禁シ又ハ刈置ヲ禁スル等是ナリ

第三　放牧權　是レ森林野野ニ付キ牛馬豚羊ヲ放牧スルノ權利ニシテ我國ニ於テハ之ニ依リテ牛馬ヲ放牧スルノ例多ク歐洲ニ於テハ之ニ依リテ豚羊ヲ放牧スルノ例多シ此權利ノ行使ハ之ヲ忽ニスルトキハ亦森林ニ損害ヲ及ホス虞アルヲ以テ之ヲ設定スルニ當リテハ其放牧ノ區域ヲ明定シ其反則ニ對スル制裁ニ付テ詳細ノ契約ヲ爲スヲ常態トセリ

第四　秣刈取權　是レ森林原野ニ付テ下草萱ノ類ヲ採取シテ牛馬ノ飼料ニ供スル權利ニシテ亦農家經濟上樞要ノ權利ナリ此權利ハ概シテ原野ノ上ニ存シ其權利ノ存スル場所ヲ稱シテ秣場若クハ秣山ト曰フ此權利ハ何レノ地方ニモ存シテ放牧權ノ如ク獨立セルモノニ非ス他ノ權利ト合シテ一ノ入會權ヲ爲スノ例最モ多シ而シテ此權利ハ一旦成立スルトキハ一面ニハ漸漸其範圍ヲ廣メ他ノ森林地ヲ原野ニ化セシメントシ一面ニハ秣場ヲ變シテ森林ト爲シ又ハ耕地トスルハ頗ル其不利益ナルカ爲メ秣場及ヒ其近傍ニ於ケル植林及ヒ開墾ヲ妨害セントスル虞アリ之ヲ以テ秣場ニ付テハ第一、地域ヲ限定スルコト第二、成ルヘク植林地ヲ避クルコトヲ必要トス

第五　立木伐採權　此權利ハ森林ニ於テ其主產物タル立木ヲ伐採スル權利ニシテ最モ利益アルモノナリ唯此權利ニシテ地役權ノ性質ヲ有スル入會權ハ極メテ稀ニ存在シ其權利ハ一部入會ノ性質ヲ有シ概シテ森林ノ一部ニ付テ其立木ヲ伐採スルニ過キサルヲ例トス故ニ此權利ハ特別ナル契約アル外ハ地役權ノ性質ヲ有スル入會權ニハ存在セサルヲ原則トス

以上述ヘタル五種ノ權利ハ入會權ノ目的ヨリ觀察シタル主要ナル作用ナリトス而シテ此種ノ入會權ハ森林原野ノ所有者ニ對シテハ一定ノ賠償ヲ爲スヲ通例トス其賠償ノ名稱ニ種種アリ下草料、山禮、拜借料、生料、山草料、鎌料、鎌手數料、薪草料、鎌役、山役、下草刈取料等是ナリ其賠償ノ方法モ或ハ金錢ヲ以テ納メ或ハ米穀ヲ以テ納メ或ハ人夫ヲ以テ納ムルノ例アリテ一定セス

第五章　共有權ノ性質ヲ有スル入會權

第一節　共意義

共有權ノ性質ヲ有スル入會權トハ森林原野ノ共有者カ其森林原野ニ對シ入會シテ其權利ヲ行使スルコトヲ云フ故ニ此權利ハ森林原野ノ共有權ノ行使ニ過キサルナリ

第二節　性質

此種ノ入會權ハ其本體ハ森林原野ニ對スル所有權ナリ之ヲ入會權ト稱シ特別ナル名稱ヲ付與スルハ其所有權カ數人ノ共有ニ屬スル變態ナレハナリ故ニ其權利ノ行使ハ畢竟所有權ノ行使ニシテ其性質ハ全ク純然タル共有權ナリトス隨テ此權利ニ付テハ民法中共有權ノ規定ヲ適用スヘキモノナリ

第三節　範圍

此權利ハ其範圍最モ廣ク森林原野ニ對スル一切ノ處分ニ及フモノトス故ニ其副產物ヲ利用ハ勿論主產物ノ收益其他一切ノ利用及ヒ處分ヲ爲スコトヲ得即チ其主ナルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

一　立木ノ伐採

二　土地ノ開墾

三　植林

四　石材ノ切出

五　炭燒

六　採薪

七　下草刈取秣刈取

八　放牧

右ノ如クナルヲ以テ共有權ノ性質ヲ有スル入會權ヲ分析スレハ之ヲ左ノ二種ニ分類スルコトヲ得

第一　地盤ノ入會權　此權利ハ森林原野ニ付キ其地盤ヲ利用スルヲ云フ之ニ屬スルモノハ土地ノ開墾石材ノ切出及ヒ植林等ナリ土地ノ開墾トハ森林原野

ノ地盤ニ工作ヲ加ヘ之ヲ田畑若クハ其他ノ有益地ニ變スルヲ謂フ是レ地盤利用中ノ最モ大ナルモノナレトモ此權利ハ森林ノ維持保存ノ爲メニ之ヲ制限スルコトアリ即チ(一)其森林カ保安林ニ係ルトキニ於テハ絶對ニ之ヲ禁ス(二)其他ノ森林ニ於テモ古林若クハ森林ノ重要部分ニハ之ヲ禁スルコトヲ常トス石材ノ切出トハ森林原野ノ地盤中其地質硬固ニシテ石材ニ供スルコトヲ得ルモノヲ切出シテ輸出スルコトヲ謂フ此權利ハ亦地盤ノ重要ナル利用ナレトモ其森林原野ニ及ホスノ關係ハ土地ノ開墾ト異ナルコトナキヲ以テ之ト同一ノ制限ヲ有ス植林トハ森林原野ノ地盤ニ新ニ造林スルコトヲ謂フ是レ地盤ニ關スル最モ有益ノ利用ニシテ之ニ關シテハ何等ノ制限ヲ置カサルヲ原則トスルモ亦往往其近傍ニ耕地ヲ存スル場合ニハ多少ノ制限ヲ存スルコトアリ例ヘハ其疆界線ヲ去ル一定ノ距離ノ間ハ植林ヲ許ササル如シ此等地盤ノ利用ハ唯リ共有權ノ性質ヲ有スル入會權ニノミ存スルモノニシテ是レ實ニ森林原野所有權ノ行使ニ過キサルモノトスベシ

第二　毛上ノ入會權　此權利ハ森林原野ノ地盤以上ノ利用ニシテ之ヲ分チテ

二トス一ハ主タル毛上入會權ニシテ即チ立木ハ伐採炭燒等是ナリ立木ノ伐採トハ森林原野ノ木材ノ利用ニシテ最モ有利ナル收益トス然レトモ此利用ハ森林ノ頽廢ノ直接ノ原因ナルヲ以テ之ニ關シテハ森林ノ造營及ヒ保安ノ爲メニ種種ノ制限アリ其制限ノ如キハ各地ノ舊慣ニ依リ一定セスト雖モ其主ナルモノハ(一)保安林ニ付テハ皆伐ヲ禁止スルコト(二)輪伐法ヲ設クルコト(三)特ニ必要アルトキハ造林ヲ命スルコト(四)木材ノ種類ニ付キ伐採年期ノ制限ヲ定ムルコト(五)貯木及ヒ永久禁伐木等ヲ定ムル等ナリ炭燒トハ森林ノ立木ノ枝幹樹根ヲ燃熱シテ木炭ヲ製出スルヲ謂フ是レ立木ニ關スル有益ノ利用ナリ其他樟木ヲ有スル森林ニ付テハ樟腦ヲ製出スル如キ亦毛上ノ主タル利用ト謂フヘシ要スルニ此等ノ利用ハ毛上ノ主タル利用ニシテ通常ノ入會權ニ存在セス唯リ共有權ノ性質ヲ有スル入會權ニ存在スルヲ原則トス二ハ副タル毛上ノ入會權ニシテ即チ下草刈取、秣刈取、採薪、放牧等是ナリ此等ノ利用ハ地役權ノ性質ヲ有スル入會權ト同一ニシテ畢竟森林原野ニ對スル副產物ノ利用ニ過キサルモノトス」

以上述ヘタル如ク共有權ノ性質ヲ有スル入會權ハ其權利ノ範圍頗ル廣シト雖

モ其權利ヲ行使スルニ當リテハ一ハ其有權ノ性質上當然其權利者相互ノ利益ノ爲メニ制限セラレ一ハ契約若クハ慣習ニ依リ種種ノ制限ヲ受ケ一定セザルモ概シテ其副ダル毛上ノ利用ハ各自ノ自由ニ放任シ其他ノ主タル毛上ノ利用及ヒ地盤ノ利用ニ付テハ其收益ハ各權利者間ニ平等ニ分配スルヲ以テ例トスルカ如シ

第六章　債權ノ性質ヲ有スル入會權

第一節　意義

債權ノ性質ヲ有スル入會權トハ町村若クハ字大字ノ地元人民カ森林、原野ノ上ニ一定ノ時期一部ノ使用ヲ爲スコトヲ森林、原野ノ所有者ニ請求スルコトヲ得ル權利ナリ此權利ハ概シテ國有林、御料林ノ上ニ存スルヲ常トス

第二節　性質

此種ノ入會權ハ或ハ町村若クハ字、大字ノ地元人民ニ屬スル一種ノ賃借權ナル

コトアリ或ハ一種ノ無賃ノ使用權ナルコトアリ其目的ハ即チ森林、原野ヲ一部使用スルニ在リ其義務者ハ森林、原野ノ所有者ニシテ其權利者ハ町村若クハ地元人民ナリトス蓋シ此種ノ入會權ニハ其著シキモノ二アリ一ハ町村又ハ地元人民カ借賃ヲ納付シ森林、原野ノ一部ヲ一時借用シ之ヲ使用セントスル場合ナリ是レ純然タル賃借權ニシテ其期間ノ如キモ五六年ヲ通例トス一ハ町村又ハ地元人民カ特ニ森林、原野ニ付テ副產物ノ無料採取ヲ許サレタルカ爲メニ又ハ從來ノ慣行ニ依リテ森林、原野ニ付テ木竹薪炭材、下草秣、小柴、土石等ノ賣渡ヲ許サレタル爲メニ一時森林、原野ヲ使用スル場合ニシテ是レ使用貸借ノ規定ヲ準用スヘキモノトス又社等ノ上地官林ヲ社寺ノ委託官林トセル場合ニハ之ニ其林地ノ使用ヲ許可シテ林產ヲ下付スルコトアリ又一般ニ山林看守人(方言ニ山守又ハ步頭ト謂フ)ヲ置キ之ニ其報酬トシテ山林ノ收益ノ幾分ヲ付與スルヲ得ル場合アリ此等ノ權利ヲ稱シテ入會權ト稱スルノ例ナキニシモ非スト雖モ此等ノ權利ハ森林ニ對スル權利ナルモ單ニ一人ニ歸屬スヘキ權利ナルカ故ニ入會權ノ概念ニ適合セス且其慣例ハ一小部局ニ止マルモノタルヲ以テ此種ノ權

利ハ入會權ノ中ニ包含セストスルヲ可ナリトス

第三節　範圍

此種ノ入會權ハ森林原野ニ對スル一部ノ使用ヲ目的トスルモ其權利ノ範圍ハ其契約ニ依リ種種ニシテ一定セス一ニ當事者ノ協定スルヲ以テ標準トセサルヘカラス故ニ或ハ主產物ノ利用ヲ包含スルモノアリ或ハ副產物ニ止マルコトアリ其使用期間ニ付テモ或ハ五六年ニ至ル場合アリ或ハ一年限ニシテ毎年更新スルコトアリ概シテ賃貸借ニ屬スルモノハ前者ニ屬シ其他ハ後者ニ屬ス要スルニ其範圍ハ一ニ當事者ノ契約ニ依リテ定マルモノナリ

第七章　入會權ニ關スル特種ノ權利

以上述ヘタル入會權ノ種類ノ外ニ尙ホ特種ノ入會權アリ即チ地役權ノ性質ヲ有セス、其有權ノ性質ヲ有セス又債權ノ性質ヲ有セサル入會權アリ例ヘハ法人ヲ形成セサル字若クハ大字ノ便益ノ爲メニ森林原野ニ對シテ其副產物若クハ

ルカ故ニ邊羅ノ法律ニ從ハスト然レトモ領事裁判權ニ從フノ權利アルモ追放ヲ受ケシテ可ナリトノ權利アルモノニ非ス領事裁判權ハ裁判ノ問題ニシテ追放ハ裁判ノ問題ニ非ス千八百九十八年獨逸カ國境ニ在ル丁抹人ヲ追放シタルカ如キ或ハ墺國人ノ獨逸ニ在ル者ヲ追放シタルカ如キハ其實例ナリ要スルニ國法ヲ以テ定ムル所ニ據ルモ條約又ハ學會ノ議決ニテ定ムル所ニ據ルモ如何ナル理由ヲ以テスルモ追放スルコトヲ得ヘク又縱令之ヲ定メサルモ國家ハ追放スルコトヲ得ヘキ權利ヲ有スルナリ

尙ホ茲ニ附帶シテ說明スヘキコトハ國家ハ追放ノ權利ヲ有スレトモ此義務ヲ有スルモノナルヤ否ヤノ問題ナリ「ブルメリング」ノ如キハ義務アリト主張シ予モ亦之ヲ贊成スル者ナリ例ヘハ康有爲カ日本ニ來リタルトキ支那ハ日本ノ友親國ナレハ友親國ノ罰セントスル者ヲ保護シテ日本ニ居住セシムルハ友親國ニ對スル友誼ヲ缺クカ故ニ此ノ如キ者ハ日本ヨリ追放スル義務アルカ如キ是ナリ又或ハ甲國人カ乙國ニ於テ甲國ノ秩序ヲ亂サントスルトキハ乙國ハ十分ノ取締ヲ爲ササルヘカラサル義務アリ然ルニ十分之ヲ取締ルコト能ハサルト

キハ又追放スルノ義務アルナリ要スルニ此問題ハ國家ハ外國人ノ內國ニ在ル者ノ行爲ニ付テ責任ヲ負フヤ否ヤノ問題ニ歸著ス「グフケン」曰ク手段カ不十分ナリトノ抗辯ハ許サレスト予モ亦此說ヲ採ル者ナリ何トナレハ國家ハ自國人ヲ取締ルコトヲ得サル抗辯ヲ爲スコト能ハサルト同シク外國人ヲモ取締ラサルヘカラサレハナリ

追放ノ手續ハ各國ノ法律ニ依リテ異ナリ瑞西ノ如キハ行政廳カ十分ノ審査ヲ爲スヘキモノトセリ實例ニ依レハ追放ノ前ニ豫告スルコトヲ例トス千八百六十一年倫逃人「エトワードライト」ニ豫告ヲ爲シ千八百七十二年西班牙人「ドンカルス」ニ豫告シタル如キハ其一例ナリ次ニ追放セラルル者ノ本國ニ追放ノ通知ヲ爲スヘキモノナリ

親又ハ夫カ追放セラルルトキハ其子又ハ妻モ共ニ追放セラルルモノナルヤ夫レ追放ハ一身ニ專屬スヘキモノナレハ當然子又ハ妻ニ及スモノニ非ス

次ニ追放ノ效果ヲ述ヘンニ追放セラレタル者ハ其土地ニ居住スルコト能ハサルモノニシテ唯リ其國ヲ退去セサルヘカラサルノミナラス既ニ一旦退去シタルトキハ再ヒ來ルコト能ハサルナリ但「バイエルン」ノ法律ニテハ一定ノ年限ヲ過クルトキハ此限ニ在ラストスルノ特例アリ更ニ追放ノ效果トシテ茲ニ論定セサルヘカラサルコトハ追放ノ命令ニ從ハサルトキ及ヒ一旦追放セラレタルモ再ヒ來ルトキハ如何ニスヘキヤ是ナリ是レ各國ノ法律ニ於テ定ムヘキモノニシテ再ヒ來ルトキハ單ニ再ヒ追放スヘシトスルモアリ又ハ刑罰ニ處スルトスルモアリ又獨逸ノ如ク再度來ルトキハ追放シ其後更ニ來ルトキハ刑罰ヲ科シテ追放スト爲スモノモアリ

追放ヲ爲ス權限ヲ有スル官廳ハ何レナリヤ立法論トシテハ種種アレトモ今日ハ行政廳ニテ爲スヲ通例トス日本ニ於テハ明治二十七年勅令第三十七號ヲ以テ內務大臣、府縣知事ニ此權ヲ與ヘタリ瑞西「バイエルン」ニテハ行政廳ニ於テ之ヲ決定スヘシト爲セリ又行政廳ニ此權限ヲ與ヘサルハ英國ナリ同國ハ原則トシテ追放ヲ認メサルカ故ニ若シ追放セントスルトキハ國會ニ於テ議決スルモノトス

尙ホ追放セラレタル者ハ追放セル國家ヲ訴フルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題アリ

之ニ關シテハ何レノ國ノ法律ニ於テモ規定スル所ナシト雖モ早晩攻究スヘキコトナリ例ヘハ府縣知事ノ爲シタル追放ニ付テハ內務大臣ニ內務大臣ノ爲シタル追放ニ付テハ國會ニ對シテ訴フルカ如キ是ナリ

第一款　郵便

國家ハ郵便行政ニ關シテ主權ヲ有スルヲ以テ如何ナル方法ヲ採ルモ自由ナルヲ原則トス然ルニ或理由ヲ以テ此權利ノ制限ヲ受クルコトアリ萬國郵便同盟ニ依リテ拘束セラルルモノヲ以テ一般ノ制限ト爲ス尙ホ此同盟以外ニ於テ特別ニ拘束ヲ受クルモノアリ例ヘハ明治八年ニ至ルマテ日本ニ於テハ英吉利、佛蘭西カ其國ノ郵便局ヲ設置スルコトヲ許シ日本ヨリ外國ニ差立ツヘキ郵便物及ヒ外國ヨリ日本ニ到來スル郵便物ヲ總テ此外國郵便局ニ於テ取扱ヒタリ今日ニ於テモ朝鮮及ヒ支那ニハ日本ノ郵便局アリ又土耳其ニ於テモ歐洲各國ノ郵便局アリ是レ皆主權ノ制限ナリ此種ノ場合ニ於テハ郵便切手ノ收入ニ於テモ其國ニ屬セス外國ニ屬スルコトト爲ルナリ而シテ斯ル制限ヲ受クルハ一國ノ制度整頓セサルトキニ於テハ又已ムヲ得サルノ事情ニ出ツ明治八年前ノ日本現在ノ支那、朝鮮及ヒ土耳其等ニハ實ニ此事情ノ存スルヲ以テ郵便行政上ノ主權ノ制限行ハルルモノナリ一般ノ開明國ニハ斯ル制限行ハルルコトナシ今日郵便行政權ノ制限中最モ顯著ナルモノハ千八百七十八年ノ萬國郵便同盟ナリ日本モ此同盟ニ加入セリ此同盟ニ加入シ條約ヲ遵奉スルニ因リ國家ハ主權ノ制限ヲ受ク而シテ此制限ハ甚タ好果ヲ有スルモノナリ若シ此制限ヲ受ケスシテ各國隨意ニ郵便行政ヲ爲サハ世界ノ郵便行政ハ圓滑ニ行ハレサルヘシ故ニ同盟條約ノ存在即チ主權ノ制限カ却テ郵便行政ノ敏活ナル働ヲ爲スニ至ルモノナリ此同盟ノ利益ヲ擧クレハ（第一）世界ノ郵便稅同一ナルコト及ヒ（第二）郵便物ノ通過ニ特別ノ手數料ヲ徵セサルコト等ナリ

萬國郵便同盟ハ千八百七十八年七月一日巴里ニ於テ成立シ萬國郵便同盟中央事務所ヲ瑞西「ベルン」ニ設ケ每月「郵便同盟」ト稱スル雜誌ヲ發行シ英、佛、獨三國ノ語ヲ以テ記載ス此事務所ニハ所長ニ隸屬セル一人ノ吏員アリ事務所ハ萬國郵便同盟ノ事務ヲ取扱フモノニシテ同盟會ノ開會、報告、會費ノ徵收等ヲ司ル本會

ハ七年毎ニ會議ヲ開ク千八百七十四年ニ本會ト同一性質ノ同盟會起リシカ千八百七十八年ニ本會起リ第一回ハ巴里ニ第二回ハ葡萄牙ノ「リスボン」ニ第三回ハ維納ニ第四回ハ亞米利加合衆國「ワシントン」ニ開キ最終ニ於テ支那及ヒ朝鮮モ同盟ニ加ハルコトト爲レリ此同盟ニ依リテ第三ノ便利ナル點ハ其郵便物トシテ取扱フ物ノ範圍甚タ廣キコトナリ

以上ノ同盟ニ加ハリタルヲ以テ或國家ハ他ノ國家ト異ナリタル條約ヲ締結スルコトヲ妨ケス即チ一層精密ナル又ハ爾他ノ方法ヲ講スルコトハ此事業ノ發達ニ取リテモ亦決シテ尠カラサルモノナリ

第二款　電信

萬國郵便同盟ノ外ニ萬國電信同盟アリ千八百八十五年五月十七日巴里ニ起レリ此同盟モ亦中央事務所ヲ「ベルン」ニ設ケ萬國郵便同盟事務所ト同所ニ置ク事務所ヨリハ佛文ヲ以テ雜誌ヲ發行ス此同盟ノ郵便同盟ニ比シテ是ラサル所ハ世界一般電信料ノ同一ナラサルコトナリ各國ハ屢之ヲ同一ニセンコトヲ主張シタレトモ今日ニ至ルマテ未タ行ハレス千八百八十四年巴里ニ於テ「海底電線保護ニ關スル萬國條約」ナルモノ成立シ今日ニ於テハ世界ノ各國悉ク皆之ニ加ハレリ此同盟條約ニ定ムル所ハ海底電線ヲ破毀スヘカラサルコト若シ之ヲ犯セハ損害賠償ヲ命スヘキコト等是ナリ

戰爭中ニ於テハ海底電線ヲ切斷スルコトヲ許スヤ否ヤハ往往議論ト爲リ學說モ亦種種ニ分岐セリ或學者ハ如何ナル場合ニ於テモ切斷スルコト能ハス何トナレハ萬國互ニ平和的ノ交際ヲ斷絕シ又ハ經濟的恐慌ヲ來スカ如キコトアルヲ以テナリト、或學者ハ交戰國間ニ通スル電線ヲ切斷スルモ差支ナシ何トナレハ戰爭ノ用ニ供セラルルノ恐アレハナリト唱フ、以上二說ノ外第三說ハ交戰國ト中立國トニ通スル電線ヲモ切斷ヲ許ストノ說ナリ此說更ニ二ニ分ル一ハ中立國ト交戰國トノ間ニ通スルモノニシテ戰爭ノ爲メニ用ヒラレサルモノハ切斷スヘカラストシ二ハ中立國ト交戰國トノ間ニ通スルモノニシテ戰爭ノ爲メニ用ヒラレサルモノモ切斷スルコトヲ得ヘシト云フナリ今日ニ於テハ最後ノ說最モ强力ヲ占ム此說ノ論據ハ電線ハ常ニ平和ノ爲メニ用ヒラレ居ルモ何時

戰爭ノ爲メニ用ヒラルルヤモ測ルヘカラサルヲ以テ切斷スルコトヲ得ト云フニ在リ然レトモ此說ハ論理ニ於テ誤レリ何トナレハ戰爭ノ爲メニ用ヒラレサル電線ヲ切斷スルノ必要ナキモノナレハナリ尙ホ海底電線監督ニ付テハ電線ヲ破毀シタル船ハ何國ノ軍艦之ヲ認ムルモ其軍艦所屬ノ法律ニ依リテ罰セラル又各國ハ此電線ヲ保護スル爲メニ法律ヲ發スルノ義務アリ

第三款　電話

電話ニ付テハ今日ニ於テ萬國同盟ナシ其理由ハ此事業ノ生シテヨリ未タ年ヲ經サルト長距離ヲ經過セルモノナキトニ依ルナリ然レトモ電話ニ關スル條約ハ存セサルニ非ス例ヘハ千八百九十五年ノ白耳義ト和蘭トノ條約ノ如キ是ナリ

第四款　鐵道

交通行政ニ對シテ重要ナルモノハ鐵道ナリ各國ハ鐵道ニ付テモ亦自國主權ニ

依リテ自由ナル行動ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ歐洲ニ於ケル鐵道ハ常ニ各國ヲ經過スルモノ多ク一列車ニシテ數箇國ヲ通過スルモノアリ此等ノ場合ニ於テ自國主權ヲ絕對ニ行使セハ一國ノ境界ニ於テ列車ヲ交替スル等ノ事ヲ爲ササルヘカラサルヘク爲メニ非常ナル勞力ト費用トヲ要ス故ニ行政主權ノ萬能ヲ制限シ此制限ニ依リテ利益ヲ受ケントセリ萬國鐵道同盟ナルモノナキモ千八百九十年佛蘭伊白耳埃瑞西ルクセンブルク」ノ九箇國間ニ鐵道貨物同盟ナルモノ生シ千八百九十七年丁抹之ニ加ハリタリ尙ホ此他國ト國トノ間ニ特別ノ條約ヲ設クルモノ數多アリ就中有名ナル條約ハ「サンゴタール」ノ鐵道ニ關スルモノナリ此鐵道ヲ開鑿スルニ付テ伊蘭瑞三國各經費ヲ支出シ隧道ヲ造リタリ

第五款　度量衡

度量衡ニ關スル同盟ハ千八百七十九年巴里ニ起リ其條約第一條ヲ以テ本同盟ハ學問上ノ同盟ニシテ政治上ノ同盟ニ非サルコトヲ明カニシ又本同盟ノ中央事務所ニハ一人ノ所長二人ノ助手不定數ノ事務員ヲ置クコト、各國十四名ノ委

員ヲ出スコト及ヒ六年毎ニ開會スルコト等ヲモ定メタリ本同盟國ニ加盟セル者ノ數十七箇國ニシテ英吉利之ニ加盟セスヒイヤ問題ニ關スル又本同盟ヲ中央

第六款　貨幣

貨幣ニ付テモ亦主權ノ自由存スルヲ以テ外國ノ貨幣ヲ使用セサルヘカラサルノ義務ナク又如何ナル貨幣ヲ造ラサルヘカラスト云フカ如キ義務ナシ若シ此義務アリトセハ貨幣行政權ノ制限ヲ受ケタルモノナリ此制限ヲ受クルヲ知テ國家ノ便利ナリ各國共通ノ貨幣ナルカ爲タニ受クル所ノ不利益ハ測ルヘカラサルモノアリ而シテ唯リ金銀土ノ不利益ノミナラス両替等ニ費ス所ノ時間ニ於テモ亦決シテ尠少ニ非ス然リト雖モ世界各國同一ノ貨幣ヲ使用スルコトハ到底不能ノ業ナリ予ノ考フル所ニ依レハ唯貨幣ノ單位ヲ各國同一ニセハ足レリト信ス例ヘハ一法ヲ一マルクト之ニ包含スル銀若クハ金ノ分量ヲ同一ニスヘシ此ノ如クスレハ我國ノ一圓ハ何レノ國ニ於テモ通用スルヲ以テ前述ノ不便ナキニ至ルヘシ而シテ此事業ハ極メテ容易ナリト雖モ今日ニ至ルマテ未タ實行ノ緒ニ就カス唯貨幣ニ關スル同盟ニアリ一ヲ拉丁同盟ト謂ヒ二ヲ「スカンジナビヤ」同盟ト謂フ前者ハ四國ヨリ成リ後者ハ三國ヨリ成ル拉丁同盟ハ千八百六十五年ニ起レリ本同盟ハ貨幣ヲ鑄造スルニ際シテハ名稱ヲ異ニスルモ實質ニ於テハ金一ニ付テ銀十五二分ノ一ト定メタリ此同盟ノ採用セル方法ハ世界萬國ニ行ハレ得ルモノニ拘ハラス今日然ラサルハ伊太利カ誠實ヲ守ラサリシヲ以テナリ「スカンジナビヤ」同盟ハ千八百七十三年五月二十七日ヲ以テ締結セリ今日ニ於ケル貨幣ニ關スル行政主權ハ嚴格ニ行ハレタルモ各國ノ信用增加スルニ隨ヒテ行政主權ノ制限ヲ見ルニ至ルヘキカ

第七款　衛生

衛生ニ關スル行政主權モ亦各國之ヲ有スル故ニ外國ヨリ制限セラルルコトナカ例ヘハ一國ハ他國ノ醫師ヲシテ開業セシメサルヘカラサルノ義務ヲ負ハス又產婆ニ付テモ之ト同一ナリ然レトモ今日ノ日本ハ外國ノ免狀ヲ有スル醫師ヲシテ日本ニ於テモ開業セシムルコトヲ爲セリ殊ニ國境ヲ接スル國ニ於テハ多

クハ外國ノ醫師ヲシテ診察治療ヲ爲サシムルコトヲ許ス是レ條約若クハ國法ヲ以テ定ムル所ナリ

各國共同ノ條約ヲ締結セサルモ國際法上認タラレタルモノハ檢疫ナリ檢疫ハ何レノ國家モ之ヲ行ヒ檢疫中ハ黃色ノ旗ヲ樹ツ是レ第十四世紀ノ中頃土耳其ニ黑死病ノ流行シタルトキ之ヲ行ヒ大ニ效ヲ奏シタルヲ以テ離隔檢疫ヲ爲スコトハ今日各國ノ認ムル所ナルモ軍艦ニ對シテハ之ヲ爲サス

虎列刺病ニ付テ萬國條約ヲ締結セン爲メ那破翁三世ハ千八百五十年ニ數國ノ代表者ヲ集メテ會議ヲ開キタルモ其效ヲ奏セス千八百五十九年、千八百六十六年、千八百七十四年、千八百八十一年及ヒ千八百八十五年ニ各國ニ開會シ千八百九十二年伊太利ノ「ウェニス」ニ於テ、千八百九十三年獨逸ノ「ドレスデン」ニ於テ、千八百九十四年佛蘭西ノ巴里ニ於テ會議ヲ開キタリ此條約ノ規定セル主タル事項ハ船ヲ分チテ病船、嫌疑船及ヒ健康船ノ三ト爲スコト、各國ハ國法ヲ以テ虎列刺病退治ヲ爲スノ方法ヲ定メ自國ニ病者アレハ之ヲ各國ニ通知シ物品ハ輸出ヲ許サス及ヒ嫌疑船ニ對シテハ消毒ヲ行フコト等ヲ約セリ亞細亞ハ之ニ加盟セサルモ歐洲各國ハ概チ之ニ加盟セリ

千八百九十七年即チ明治三十年三月十九日伊太利「ウェニス」ニ於テ歐洲各國會議ヲ開キ黑死病撲滅條約ヲ締結セリ當時印度孟買ニ於テ黑死病大ニ流行シタルヲ以テ歐羅巴ニ傳播セサルノ準備ヲ爲セルナリ此同盟條約ハ概チ虎列刺同盟條約ト同一ナルモ檢疫ヲ爲スニ當リ船中ニ醫師アル場合又ハ乾燥焜爐アルトキハ寬大ナル取扱ヲ爲スコトヲ爲セリ

今日ニ於テ學問上ノ會議ト國法上ノ制限トヲ以テ行政主權ヲ制限シタルモノアリト雖モ未タ國際的行政主權ヲ制限シタルモノナキハ癩病ト肺病トナリ而シテ既ニ其實行ニ著手シテ將ニ成ラントシツツアルモノハ花柳病ナリ千八百九十八年「ブリュタセル」府ニ於テ各國ヨリ委員ヲ派遣シテ萬國花柳病會議ヲ開キシカ萬國條約ノ締結ヲ見ルニ至ラスシテ終レリ第二同ハ今年開カルル筈ナリ是レ虎列刺「ペスト」ニ次テ恐ルヘキ疾病ト看做シタルカ爲メナリ

尙ホ人類以外ノモノノ病氣ニ付テ國際的保護ヲ與ヘタルモノハ恐犬病(一時各國ニテ條約ヲ以テ豫防セシカ佛國ニ「パスツール」ト云ヘル大家恐犬病患者ニ注

射スル藥ヲ發明シタル以來條約ハ自然消滅セリ)又萬國鳥類保護會アリ(條約案出タタレトモ成立セス)又「ベーリング」海ノ獺虎獵保護條約(千八百九十八年)アリ「ワシントン」ニ於テ定メタルモノ是ナリ又「ライン」河ニ鯨ヲ捕漁スルコトヲ制限シタル條約アリ是レ公海自由ノ原則ヲ制限スル行政權ノ制限ナリ又最モ必要ヲ感シツツアル牛疫家畜病ニ關シテハ未タ何等ノ萬國條約ナシ(萬國ニ限植物ニ付テハ歐洲大陸ニ於テハ葡萄牙ニ繁殖スル毛蟲ヲ驅除スル條約アリ(千八百八十一年ニ成立シ後千八百九十八年佛、獨、伊、西、和、白、ルーマニヤ、葡等十一箇國ニ於テ之カ條約ヲ締結シタリ)

尚ホ此以外ノ權利ニ關スル制限ハ萬國工業所有權保護同盟條約ノ如シ此同盟ハ千八百八十三年ニ成立セルモノナリ又著作權保護同盟條約(國際測量同盟千八百六十四年)稅率公布同盟條約(「ブリュクセル」ニ事務所ヲ設ケ英、獨、佛、伊、西五箇國ノ語ニテ機關雜誌ヲ發刊セリ)萬國航海會議(本年セントピータースブルーグニ開會ス)

第八款　奴隸賣買

奴隸賣買禁示同盟條約(千八百十五年、英、墺、露、普ノ四國ニテ「ビアナ」條約ヲ締結シ左ノ事柄ヲ約定セリ)

一　各國各奴隸賣買ヲ禁示スルコトヲ國法ニ於テ制定スルコト

二　大洋ニ於テ奴隸ヲ賣買スル船ヲ發見スルトキハ如何ナル國ノ軍艦モ之ヲ搜索スルコトヲ得

三　之ヲ搜索シテ發見シタルトキハ捕ヘタル國ノ裁判所ニ於テ裁判權ヲ有ス

然レトモ此條約ハ終ニ完備ナル效果ヲ見ルニ至ラスシテ終リ後千八百十七年及ヒ千八百十八年倫敦ニ於テ會議ヲ開キ後「エキスラシャペル」ニ於テ開キ千八百二十二年西班牙ニ於テ開キシカ何レモ皆實行ヲ見ス後千八百八十九年ニ至リ「ブリュクセル」ニ於テ各國ハ條約ヲ締結シテ始メテ該條約ヲ實行スルニ至ルリ此條約ハ千八百八十五年ノ「コンゴー」條約ニ胚胎シタルモノナリ此他支那ニ「タ

リ」(苦力(勞働者)ノ賣買ヲ禁スルモノ信教ノ自由ヲ與ヘサルヘカラストスル條約勞働者重ニ職工)保護同盟條約(千八百九十年歐洲大國十三箇國伯林ニ集リテ會議ヲ開キシカ成立セサリシナリ)海外移住ノ自由(同前成立セス)等アリ

第九款　國際地役

國際地役ニ二種アリ一ハ積極的地役ニシテ或國家カ或他ノ國家ノ土地ヲ使用スルコトニシテ承役國ヨリ云フトキハ國家ハ外國ヲシテ自國ニ於テ爲サシメスシテ可ナルコトヲ爲サシムルモノニシテ要役國ヨリ觀レハ國家ハ外國ニ於テ爲ス能ハサルコトヲ爲スモノナリ又消極的地役トハ自國カ土地ニ關シテ爲スコトヲ得ヘキ權利ヲ爲サヽルコトナリ例ヘハ千八百六十七年ノルクセンブルヒ條約ニ於テ自國ノ城塞ヲ破壞シテ再ヒ築城セサルコトヲ約定シタルノ類是ナリ以上ノ事實ハ各國及ヒ學者ノ悉タ認ムル所ナレトモ獨逸ノ學者中ニ此權利ニ地役ナル名稱ヲ附スルハ不可ナリ地役トハ物權ニシテ國家ノ土地ニ關スル行政權ノ制限トシテノ權利ニ非ス故ニ國家ハ外國ノ土地ニ對シテ物權ノ一タル地役權ヲ有スルコトナシ左レハ土地ニ關スル行政上ノ一制限ナリト謂フヘシト論スル者アリ

第三節　立法權

國家カ立法ニ關スル權利ヲ有スルコトハ特ニ說明スルノ要ナシ而シテ此立法權中ニハ國家カ憲法ヲ制定變更スル權利ヲモ包含スヘシ然ルニ此變更ニシテ他ノ國家ニ關係ヲ及ホスヘキ場合ニ於テ始メテ國際法上之ヲ論究スルノ必要ヲ見ルナリ若シ一國ノ憲法カ外國ニ保證セラレアル場合ニ於テ其保證ヲ與フル國家ハ保證ヲ受クル國家ノ憲法變更ニ關シ容喙スルコトヲ得ヘキモノトス是レ即チ其國家間ノ條約ニ因リテ始メテ生スルモノニシテ國家ノ有スル立法權ニ對スル一ノ例外ヲ爲スモノトス斯ル例外ハ別ニ說明スルノ必要ナキヲ以テ之ヲ逃ヘス又法律ヲ公布スル權利等ニ至リテモ他國ノ主權ノ下ニ立ツヘキモノニ非サルハ說明ヲ俟タサルナリ

第四節　形式上ノ權利

形式上ノ權利ハ之ヲ有セサルモ國家ノ存立ニハ妨ナキモノナリ此權利中重ナルモノハ國家ノ名稱、元首ノ名稱、徽章及ヒ各國ノ席順是ナリ

第一　國家ノ名稱、國家ハ如何ナル名稱ヲ用フルモ自由ナリ然レトモ之ニ一ノ制限アリ即チ國家ハ外國ノ名稱ヲ用フルコト能ハスト云フコト是ナリ茲ニ一ノ疑問ハ國家ハ自國ニテ用フル名稱ヲ外國ヲシテ用ヒシムルノ權利アリヤ否ヤ是ナリ

第二　元首ノ名稱、元首ノ名稱モ亦各國ノ自由ナリ

第三　徽章、徽章ハ國家ヲ外部ニ表彰スルモノナレハ例ヘハ英國公使館ノ國旗ヲ破ルトキハ英國ヲ侮辱スルコトト爲ルノ類是ナリ之ヲ要スルニ國家ノ形式ハ國家ヲ代表スルモノナレハ形式ニ危害ヲ加フルトキハ國家其モノニ危害ヲ加ヘタルト同一ニ歸スルモノナリ而シテ二國間ノ條約ニ於テハ各、自國ニ取ル原本ニ自國ノ名ヲ先ニ署ス

第四、席順、羅馬法王ノ勢力旺盛ナリシ頃法王ハ各國ノ席順ヲ定メタリ後中世ニ至リ法王ノ勢力衰フルト共ニ此順序モ壞レタリ其後ハ抽籤ニテ定メタルコトアリ又委員ノ年齢著任ノ先後「アルハベット」順等ニ依リテ定メタルコトアリシカ各國ノ間ニ紛爭ヲ起シ爲メニ戰爭ヲ爲シタルコトサヘアリ今日ハ慣例上國名ノ「アルハベット」順ニ依リテ定ムルコトト爲レリ若シ二國以上ノ頭字同音ナルトキハ次字ノ「アルハベット」ニ依リテ定ム然レトモ國名ハ之ヲ呼フ國語ニ依リテ發音ヲ異ニスルコトアリ例ヘハ我國ノ如キハ我國ニテハ日本ト云ヒテNニ位スレトモ一般ニ外國ハ之ヲJニ位セシム獨逸ハ獨逸ニ於テハDニ位セシムレトモ英國ニテハ「ジャーマニー」ト呼ヒテGニ置キ佛國ニ於テハ「アルマーギュ」ト云ヒテAニ置クカ如シ此場合ニ於テハ慣例上佛語ニテ呼フ「アルハベット」順トセリ

第五章　國家ノ義務

國家ノ權利ニ對スルモノハ國家ノ義務ナリ唯例外トシテ權利ニ對シテ義務ナ

キモノアルコトヲ記憶スヘシ如何ナルモノヲ國家ノ義務中ニ設クヘキヤハ問題ナリ或人ハ干渉ヲ國家ノ義務中ニ入レテ國家ハ或場合ニハ干渉ヲ受ケサルヘカラサル義務アルモノナリト論スレトモ國家ハ外國ヨリ干渉ヲ受ケサルヘカラサル義務アルモノニ非ス又國家ハ外國ニ干渉スルノ權利ヲ有スルモノニ非ス故ニ干渉ヲ國家ノ權利義務中ニ入ルルハ不當ナリ此學者ハ何故ニ權利ノ中ニテ干渉ヲ説明セサリシヤ予ノ解スルコト能ハサル所ナリ即チ或事ニ付テハ權利ノ方面ヨリ説明シ或事ニ付テハ義務ノ方面ヨリ説明スルハ頗ル不當ナル方法ナリ又或人ハ犯罪人引渡ヲ國家ノ權利義務中ニ入ルルト雖モ犯罪人ノ引渡ハ國家ト國家トノ條約ニ依リテ生スル所ノモノニシテ條約上ノ義務ナルカ故ニ之ヲ國家ノ權利義務中ニ入ルルハ誤ナリ又或ハ國家ノ權利ノミヲ擧ケテ義務ノコトニ付テハ一言モ説明セサル者アリ又或人ハ國家ノ犯罪ナル文字ヲ用ヒテ國家カ或義務ヲ履行セサルトキハ國家ノ犯罪ナリト云ヘリ是ハ義務ト義務ノ結果トヲ同一視シタルモノニシテ此説ヲ批難スル者ハ曰ク義務ヲ怠リタルトキヲ犯罪ト謂フハ其原因ヲ除キ結果ノミヲ論シタルノ嫌アリト予ハ

此説ヲ辯護シテ國家ノ權利ヲ説キタルヲ以テ義務ヲ説明シタルニ止マリ義務ノ結果ヲ論シタルハ不當ノ説明ニ非スト云フ者ナリ國家カ或權利ニ對シ如何ナル義務ヲ履行セサルヘカラサルヤニ付テハ明カナル慣習又ハ規定ナシ故ニ此義務ヲ怠ルトキハ通常如何ナル制裁アリヤヲ説明スヘク他ノ一ハ國家ハ如何ナル行爲ニ付テ責任ヲ負フヘキヤヲ論スヘキモノナリ國家カ其行爲ニ付テ責ヲ負ハサルヘカラサルコトハ勿論ナレトモ國家自ラ行爲ヲ爲スコトナク常ニ必ス代表者ヲシテ代リテ行爲ヲ爲サシムルモノナリ國家ノ行爲ハ總テ代表者ニ依リテ爲サレタルモノナレトモ代表者ノ行爲ハ總テ國家ノ行爲ナリト謂フコト能ハス即チ代表者ノ行爲カ國家ノ命ニ反シテ爲シタルモノナルトキハ國家ノ行爲ニ非サルナリ故ニ代表者ノ行爲ヲ別チテ二トス

(一) 代表者ノ行爲カ國家ノ行爲ト爲ル場合ニシテ此場合ニハ國家ハ責ヲ負フヘキモノナリ

(二) 代表者カ國家ノ命ニ反シテ爲シタル行爲ニシテ私ノ行爲ナリ私ノ行爲ニ

對シテ國家ハ責ヲ負ハサルヘカラサルモノニ非ス然レトモ總テ私人ノ行爲ニ付テ責ヲ負ハスト云フニ非スシテ國家ノ命ニ反シテ爲シタル者ヲ監督スルノ責ニ任セサルヘカラス例ヘハ清國全權大臣崇厚カ露國トノ「リワヂヤ」條約ヲ締結スルニ當リ伊犂地方ヲ露國ニ割讓スルコトヲ約シタリ然ルニ崇厚ハ土地割讓ノ權利ヲ有セサルカ故ニ清國ハ此責ヲ負フヘキモノニ非ス然レトモ崇厚ヲ全權大臣ニ任シタルハ輕卒ナリシトノ責ハ負ハサルヘカラサルモノナレハ崇厚ヲ處刑シタルカ如キ是ナリ

國家ハ國家ノ一私人カ外國人又ハ外國國家ニ對シテ危害ヲ加ヘタルニ對シテ責ヲ負ハサルヘカラス其責任ハ監督カ不十分ナリシトキニノミ負フヘキモノニシテ反證アルトキハ責ヲ負フヘキモノニ非ス彼ノ生麥事件ノ如キ又獨逸ノ宣教師ヲ支那人カ殺シタルカ如キハ一例ナリ然レトモ茲ニ一ノ原則トモ云フヘキモノハ外國人ハ內國人ノ受クル保護ヨリ多クノ保護ヲ請求スルコトヲ得ストノコト是ナリ

責任免除ノ方法ハ之ヲ學理的ニ說明スルコト能ハサルヲ以テ方法ノ種類ノミヲ列擧スヘシ

一　謝罪　謝罪ノ方法ハ如何ナル方法ニテモ可ナリ而シテ謝罪スレハ必ス許サルヘカラサルモノニ非ス故ニ謝罪ニ依ル責任解除ハ相手國ノ之ヲ許シタルトキニ依ル

二　原狀回復

三　將來ノ安全ノ保證

四　償金

五　土地ノ割讓

六　人ノ處罰

等是ニシテ以上ノ方法ハ必ス一ヲ採ラサルヘカラサルモノニ非スシテ數多ヲ併セテ主張スルコトヲ得ルナリ

第六章　國家ノ權利義務繼承

國家ノ全部又ハ一部カ或他ノ國家ニ讓渡サレタル場合ニ於テ讓受國ハ讓渡國

ノ有シタル權利義務ヲ如何ナル程度マテ繼承スルヤ此問題ハ之ヲ國家全部讓渡ノ場合ト一部讓渡ノ場合トノ二箇ニ區別スルコトヲ得ヘシ

(一)　國家ノ全部ヲ讓渡シタル場合　此場合ヲ別チテ更ニ左ノ三ト爲ス

(A)　或一國家カ或他ノ國家ノ全部ヲ併呑シタル場合　例ヘハ北米合衆國カ布哇ヲ併合シタルカ如キ是ナリ

(B)　數國家相集リテ他ノ一國家ヲ掠奪シタル場合　例ヘハ千七百九十二年墺、露普三國カ波蘭ヲ掠奪シタルカ如キ是ナリ

(C)　多クノ國家カ滅亡シテ一國ノ成立シタル場合　例ヘハ伊太利中ノ諸國カ滅亡シテ一ノ伊太利王國ノ成立シタルカ如キハ之カ實例ナリ

(二)　國家ノ一部カ讓渡サレタル場合　此場合ハ更ニ二ニ區別スルコトヲ得ヘシ

(A)　國家ノ一部分ノ土地ノ割讓ノ場合　例ヘハ日本カ臺灣ヲ讓受ケ、千八百九十一年北米合衆國カ西班牙ノ領土「ヒリッピン」群島ヲ讓受ケタルカ如キ、獨逸カ佛國西領土ノ一部「アルサス」「ローレン」ノ土地ヲ讓受ケタルカ如キ是ナリ

受ケ若クハ其保證ヲモ爲スヘカラス然レトモ中立國人民カ交戰國雙方ト商業ヲ營ムハ自由ナルカ故ニ金錢ハ勿論兵器彈藥ヲモ其商業上交戰國ニ給與スルハ妨ナク單ニ交戰國ハ戰時禁制品トシテ其運搬中捕獲シ得ヘキニ過キス殊ニ金錢ハ商業ニ缺クヘカラサルニ由リ交戰國トノ商業ヲ全ク禁止スルニ非サレハ其流入、流出ヲ防ク能ハス又中立國人民カ交戰國ノ公債募集ニ應スルモ自由ニシテ政府ニ於テ縱令之ヲ禁セントスルモ一タヒ其債券ノ市場ニ現ハルルトキハ其賣買ヲ監督スル能ハサルモノナルヲ以テナリ

中立國政府ハ其版圖内ノ人民カ交戰國ヨリ海上捕獲ノ免狀ヲ受ケテ戰爭行爲ニ從事スルヲ禁スヘキノ義務ハ千八百五十六年巴里宣言第一條ニ私船ヲ以テ拿捕ノ用ニ供スルコトヲ自今廢止ストノ規定アルニ依リ明カナリ加之中立國ハ其人民カ版圖内ニ於テ交戰國ノ海陸軍ニ入リ又ハ之ニ加ハルノ目的ヲ以テ出發スルヲ防止スヘキ義務ヲ有ス然レトモ國家ハ版圖内ニ在ル箇人ノ動作ニ付キ縱令嚴密ノ監督ヲ爲スモ其箇人カ領内ヨリ出發シテ交戰國ニ至リ戰爭ニ加ハルヲ防クコト能ハス隨テ斯ル箇人行爲ニ付キ箇箇ノ責任アルコトナシ之

ニ反シテ其版圖內ヨリ多數ノ自國人民カ團體ヲ成シテ交戰國ニ向ヒ戰爭ニ加ハラントスル者ハ容易ニ知得シ得ヘク又禁制シ得ヘキニ由リ其出發ヲ禁スル義務アルモノトス

第二款　中立國版圖內ヲ戰爭行爲ノ用ニ供セサルヲ義務

中立國版圖ノ不可侵ハ交戰國ニ於テ尊重スヘキ義務ニシテ中立國ノ權利ノミナラス中立國モ亦交戰國ニ對シ其不可侵ヲ維持スヘキ義務ヲ有ス隨テ其版圖內ニ於テ交戰者間ノ戰爭行爲ヲ一切禁スヘシ交戰國一方ノ軍隊カ追擊セラレ自國內ニ入リタルトキハ之ヲ追拂フノ義務ナキト同時ニ其地ニ於テ戰爭ヲ爲サシメス又戰爭終局マテ其軍隊ヲ收容スルノ義務アリ又領海若シハ港內ニ於テ交戰國一方ノ軍艦カ他國軍艦ヲ攻擊シ或ハ商船ヲ捕獲シタルトキハ中立國ハ之ヲ防止シ其防止ノ爲メ兵力ヲ用フルモ妨ナシ而シテ若シ此義務ヲ怠ルトキハ被害國タル交戰國ニ對シ救濟賠償ノ責ニ任シ加害國ハ中立國ニ對シ其領土權ノ侵犯ニ付キ責任ヲ有ス然レトモ若シ其戰爭行爲ノ被害者ニシテ自ラ戰

爭ヲ開始シ中立國主權ノ侵害ヲ爲シタルトキハ中立國ハ其結果ニ付キ毫モ責任アルコトナシ

中立國版圖內ヲ交戰國軍隊ヲシテ通過セシムヘカラサルハ疑ナシト雖モ第十九世紀以前ニ於テハ一般ニ其通過ヲ交戰國ノ權利トシ兵士ノ募集モ妨ナキモノト看做サレ近世ニ於テモ「フィリモール」ノ如キハ中立國カ同一ノ許可ヲ交戰國雙方ニ與フルトキハ中立タルニ妨ナシト論セリ然レトモ中立國領土內ニ於ケル兵士ノ募集又ハ軍隊ノ通過ハ其許可ニ依リテノミ之ヲ行ヒ得ヘク且中立國ニ於テ其許可ヲ爲スニ付キ戰爭ノ進行上同一事情ノ下ニ交戰國雙方ノ軍隊ヲ通過セシムル能ハス其許可ノ前後ニ關シテハ戰爭ノ勝敗ニ關係アルノミナラス軍隊ヲ通過セシムルカ又ハ兵士ヲ募集スルノ行爲自體ニ於テ其性質上戰爭ノ進行ヲ援助スルモノナルカ故ニ局外中立ノ原則ニ反スルモノトス然レトモ軍隊ノ病者傷者ヲシテ中立國ヲ通過セシムルハ千八百七十四年「ブルッセル」宣言及ヒ平和會議ニ於ケル陸戰ノ法規慣例ニ關スル條約第五十九條ニ之ヲ規定シ「中立國ハ交戰軍ニ屬スル傷者及病者ノ其版圖內ヲ通過スルヲ許スコトヲ

得ベシ但シ之ヲ輸送スル列車ニハ戰鬪ノ人員及材料ヲ搭載セサルヲ條件トスヘシ斯ノ如キ場合ニ於テハ中立國ハ之カ爲必要ナル保安及監督ノ處置ヲ施スヘキモノトス前記ノ條件ニ依リテ甲交戰國カ乙交戰國ニ屬スル傷者及病者ヲ中立國內ノ版圖內ニ伴レ來ルトキハ中立國ハ之ヲ監守シテ再ヒ作戰動作ニ與ルコト能ハサラシムヘシ甲交戰國ヨリ依頼ヲ受ケタル傷者及病者ニ對シテモ亦同一ノ義務ヲ有スヘシ」トセリ

戰爭行爲ノ準備地即チ戰爭ノ根據地及ヒ遠征ノ出發地ト爲スヘカラサルハ亦中立國ノ義務ニ屬シ其版圖內ニ於テ交戰國軍艦及ヒ軍用ノ船舶ヲ製造若クハ武裝シ又ハ其戰鬪力ヲ版圖內ニ於テ增加スルヲ禁スヘキ義務ヲ有シ水兵ノ募集ヲモ禁スヘキニ由リ米國ハ千八百十八年ノ法律ヲ以テ版圖內ニ於ケル人民ニシテ交戰國船舶ノ港內ニ在ル者ニ對シ戰鬪力ヲ增加スル行動ヲ禁シ軍艦本國ノ人民ヲ除キ其他ノ人民ハ其水兵ト爲ルヲ禁シ英國ハ千八百十九年及ヒ七十年ノ法律ヲ以テ同一規定ヲ爲シ其規定ニ於テハ水兵ニ關スル米國ノ例外ヲ削除シ明治三十一年我勅令第六十八號ニ於テモ內外人ヲ問ハス帝國版圖內ニ於テ交戰國海陸軍ノ募集ニ應シ若クハ其事務ニ從事シ又ハ軍用ニ供スル船舶、捕獲私船ノ船員ト爲リ又ハ其募集ニ應スルヲ禁シ若クハ斯ル艦船ニ兵器彈藥其他戰爭直接ノ用ニ供スル物品ノ供給及ヒ交戰國一方ノ戰爭又ハ捕獲ノ用ニ供スル目的ヲ以テ艦船ノ賣買貸與ヲ爲シ武裝若クハ艤裝ヲ爲シ又ハ其補助ヲ爲スコトヲ禁セリ然レトモ諸國國法ニ於テ局外中立ヲ維持シ其義務ノ違反ヲ防ク爲メ如何ニ嚴密ナル規定ヲ設クルモ其自由ニ屬スト雖モ國際公法上中立國ノ權利義務ハ其規定關係ナク其規定如何ニ依リ左右セラレサルコトヲ注意セサルヘカラス

第三款　中立國ノ義務不履行ヨリ生スル直接損害

學者中中立國カ其義務ヲ實行セサルヨリ交戰國一方ニ與ヘタル結果ハ直チニ對手國ノ權利ヲ侵害シ之ニ損害ヲ與ヘタルモノト謂フヘカラスト爲ス者アレトモ國際公法上國家ノ權利義務ニ關スル法則ニ違反スルハ其權利ノ侵害ニシテ之ニ伴フ損害ハ中立國ニ於テ賠償ノ責任ヲ有ス彼ノ「アラバマ」事件ニ於テ英

國ハ一千五百五十萬弗ヲ米國ニ支拂ヒタルハ其一例ナリ同船ハ千八百六十二年英國「リバープール」港ノ「レヤード」商會ニ於テ製造セラレ同年五月十五日進水式ヲ行ヒタリシカ南軍ノ軍艦ト爲スノ目的ニテ製造中ナルコトヲ同港在留ノ米國領事カ探知シテ倫敦駐在米國公使ニ報告シ公使ハ六月二十三日英國外務大臣ニ照會シテ其差押ヲ請求シ政府ハ直チニ稅關委員ニ取調ヲ命シ七月一日稅關委員ノ意見トシテ同船ハ戰爭用ノ爲メ製造セラレ居ルモノナレトモ兵器、彈藥ノ武裝ナキニ由リ英國法律上差押フルコト能ハストシ且米國領事ニ於テ「リバープール」ノ稅關長ニ對シ同船ヲ外國軍隊入籍條例ニ依リテ處置スルニ足ルヘキ證據ヲ提供スヘキコトヲ勸告シタルヲ以テ領事ハ更ニ證據ヲ蒐集シテ提出シ七月二十四日米國公使ハ再度ノ請求ヲ爲シタルヲ以テ政府ハ法律顧問ニ之ヲ諮リ同顧問ハ二十八日ニ於テ其出發ヲ差止ムヘキ報告ヲ爲シタリ然ルニ同日朝「アラバマ」號ハ試運轉ノ形ヲ裝ヒテ出帆シ「アングレシー」州ノ海岸「セエルフラ灣」ニ至リ「リバープール」港ヨリ別船ニテ送致シタル四十名ノ水夫ヲ乘込マシメ「アゾール」島ノ「テルセイラ」港ニ至リ倫敦及ヒ「リバープール」ヨリ廻漕ニ係ル兵器彈藥ヲ武裝シテ南北戰爭中北軍商船七十艘ヲ捕獲シ「フロリダ」「シェナンドハ」「ショージャ」「サムター」等ノ船舶モ同シク英國ニ於テ製造シ兵器ハ別ニ商品トシテ英國版圖外ニ廻漕シ其船舶ヲ武裝シテ軍艦ト爲シタルモノトス此事實ニ依レ「アラバマ」其他ノ船舶ハ英國版圖內ヨリ軍艦トシテ出發シタルニ非ス領海外ニテ之ヲ綜合シテ軍艦ト爲シタルモノナルヲ以テ船體ト兵器トヲ個個ノ注文ト看ルトキハ普通船舶ノ製造ト商品タル軍用品ノ賣買トニ過キスシテ中立國ハ其責任ヲ有スヘキモノニ非ス然レトモ領海外ニ於テ之ヲ綜合シタル所ニ付テ云ヘハ敵國ニ對スル武裝ノ遠征ト爲ルモノトス依テ戰爭後米國政府ハ「アラバマ」號以下ノ船舶ヲ製造シ其出發ヲ英國ニ於テ禁セサリシ事實ヲ中立國ノ義務違反トシテ其損害ヲ請求シテ兩國ノ紛議ヲ惹起シ遂ニ此問題ハ千八百七十一年華盛頓條約ニテ仲裁裁判ニ付スルコトト爲リ裁判者ハ英米兩國ヨリ各二名伊國瑞西及ヒ「ブラジル」國ヨリ各一名ヲ以テ成立スルコトトシ千八百七十二年九月「ゼネバ」ニ開廷シテ英國ノ敗訴ト爲レリ由テ[illegible]華盛頓條約第六條ニ於テ仲裁裁判者カ裁判ヲ爲スヘキ標準トシテ三法則ヲ規

定シ中立國政府ノ義務ハ第一、其版圖內ニ於テ平和ノ關係アル國家ニ對シ巡洋又ハ戰爭ヲ實行スル目的ヲ有スト信スヘキ相當ノ理由アル船舶ノ製造、武裝若クハ艤裝ヲ防止スル爲メ相當ノ注意ヲ爲スヘク又其巡洋若クハ戰爭ヲ爲ス目的ナル船舶ニシテ其船舶ノ全體若クハ一部カ其版圖內ニ於テ殊ニ戰爭ノ用ニ適シタルモノヲ其版圖內ヨリ出發スルヲ防止スヘキ相當ノ注意ヲ爲スヘキコト第二、其諸港又ハ水上ヲ交戰國一方カ他方ニ對スル海軍行動ノ根據地トシ又ハ軍事上ノ需用品若クハ兵器ノ改新又ハ增加或ハ兵士募集ノ目的ニ使用スルノ許可若クハ其使用ヲ爲サシメサルコト第三、其諸港及ヒ水上ニ關シ並ニ版圖內ニ於ケル總テノ人民ニ關シテ前記ノ義務及ヒ責任ノ違反ヲ防止スヘキ相當ノ注意ヲ爲スヘキコトト規定シ大陸學者ハ此三法則ヲ國際公法ノ原則ト看做シ英米ノ學者ハ之ヲ國際公法ニ非ストシ殊ニ英國政府ハ此三法則ニ關シ華盛頓條約中ニ於テ「アラバマ」其他ノ事件ニ關シ米國ヨリ賠償ノ要求アリタル當時ニ於テ國際公法ノ原則トシテ之ヲ認ムル能ハスト雖モ兩國ノ交誼ヲ厚クシ且將來完全ノ法則ヲ設クル爲メ兩國間ノ本問題ヲ決スルニ當リ此規則ニ依ルコトヲ仲裁裁判者ハ了知スヘク又將來兩國ハ此規則ニ準據シ且他ノ海上諸國ニ於テ之ニ同意スルコトヲ勸誘スヘキコトヲ約定ス」トノ明文ヲ記載シ少クモ英國ハ當時之ヲ國際公法ノ法則ト看做サス其後英米兩國ハ此規則ニ付キ他國ノ同意ヲ求ムル爲メ其照會ヲ爲サント試ミタリシカ其文案ニ付キ意見ヲ異ニシ千八百七十四年以後ハ其照會ノ協議ヲモ廢止セリ之ニ先チ墺獨兩國ハ此法則ヲ承諾セサルノ意見ヲ公ニシ如何ナル國家モ未タ其三法則ニ同意シタルモノナク且此法則ニ反對スル學者ハ之ヲ目シテ中立國ノ義務ヲ非常ニ增加シ實行スヘカラサルモノト看做セリ然レトモ右法則ヲ熟考スルトキハ第二法則ハ現行國際公法ノ原則タルコト既ニ中立國ノ義務ヲ說明シタル所ニ依リ明白ナルヘシ然ラハ中立國ノ義務ヲ增加スル點如何ト云ハハ第一法則ニ付キ今日中立國ノ義務トスル所ハ交戰國間ノ戰爭ヲ爲スノ目的ヲ有スル船舶ノ製造艤裝武裝ヲ防止スヘキニ非ス單ニ其出發ヲ遠征トシテ禁スヘキニ過キス然ルニ此法則ハ船舶使用ノ意思如何ヲ豫メ識別スルノ困難ナルニ拘ハラス戰爭行爲ヲ爲スノ目的ト信スルニ相當ノ理由アルモノノ製造艤裝若クハ武裝ヲ防止スル注意

ヲ怠ルヲ中立義務違反トシ且戰爭ノ使用ト爲リタル船舶カ一部ナリトモ版圖內ニ於テ戰爭ニ適シタルノ故ヲ以テ出發ヲ禁スベキ注意ヲ怠ルベカラストシ又第三法則ニ於テ斯ル事實ヲ版圖內ニ於ケル人民カ港內又ハ領海內ニ於テ企ツルヲ防クノ注意ヲ中立國ノ義務トシタルニ在リトス加之「ゼネバ」裁判ノ判決ハ其當否ニ付キ議論アリテ英國政府ハ果シテ相當ノ注意ヲ缺キタルヤ否ヤ疑ナキ能ハス英國政治家ハ總令三法則ヲ是認スルモ之ト同時ニ其判決ヲ認ムヘカラスト公言セリ又華盛頓條約ノ三法則ニ於テ先ヲ決定スヘキモノハ中立國ノ義務トスヘキ相當ノ注意トハ如何ナル程度ノ注意ナリヤノ問題ニシテ此點ニ付テモ仲裁裁判ノ判決ヲ容易ニ是認スル能ハサルカ如ク英國ハ各場合ニ於テ國際上ノ義務トシタル注意ヲ意味シ其程度カ慣例又ハ條約ニ於テ一定セナルトキハ其義務自體ノ性質並ニ斯法ノ基礎タル正義公平並ニ一般便宜ノ觀念ニ依リテ決スヘキモノトセリ此英國ノ議論タル中立國ノ義務ハ國際公法上中立國ノ義務ト看做スヘキモノニ依ルヘシト爲スニ外ナラスシテ循環論タルヲ免レス又米國政府ノ見解ニテハ注意ノ程度ハ其義務ヲ盡サヽルヨリ生スル結果ニ依リテ判定スヘキモノトシタルヲ以テ其程度ハ將來未必ノ結果ニ依ルヘキモノトシタルノ論ナルカ故ニ實行シ能ハサルモノト謂フヘク更ニ又「ゼネバ」仲裁裁判者ハ相當ノ注意トハ中立國ノ義務ヲ履行セサルヨリシテ生スルコトアルヘキ危險ニ比例シテ之ヲ決スヘキモノナリトセリ此說タル一理アルカ如クニシテ實際中立國ノ義務ヲ益〻不明瞭ト爲シタルモストス何トナレハ同一戰爭中ニ於テモ中立國ノ位置若クハ戰爭進行ノ事情ニ依リ交戰國ニ來スコトアルヘキ危險ノ程度ハ時時刻刻變更シテ之ヲ一定シ得ヘカラサルヘキヲ以テナリ

第二章　中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務

第一節　總則

國際公法ハ他ノ法律ト同一性質ノ制裁ヲ缺キ居ルニ拘ハラス其例外トスヘキハ中立國人民ノ行爲ニ關シテ交戰國カ有スル權利義務ノ法則トス中立國箇人カ其法則ヲ侵犯スルトキハ交戰國軍艦ハ海上ニ於テ之ヲ拿捕シ自國ノ捕獲審

檢所ニ引致シ其法廷ハ國際公法ノ法則ニ依リ之ヲ審判處罰シ人民ノ本國タル中立國ハ之ニ對シテ故障ヲ唱フル能ハス但本章ニ論スル法則ハ海上捕獲ニ關スルモノニ限リ陸上ニ於テ中立國人民及ヒ其財產カ戰地又ハ占領地ニ在ル場合又ハ其人民カ戰爭行爲ニ關與シ若クハ之ヲ妨害スルトキハ交戰國ハ之ヲ敵國人民ト同一ニ待遇シ其人民ノ居所ニ於テ主權ヲ行使スル國家カ其監督ヲ爲スカ故ニ茲ニ論スルノ必要ナシ又海上ニ於テモ中立國版圖內ハ不可侵ナルカ故ニ其領海內ニ於テハ交戰國人民タルト自國若クハ他ノ中立國人民ナルトヲ問ハス交戰國軍艦ハ拿捕ヲ行フヘカラサルハ勿論臨檢ヲ爲ス能ハス是故ニ本章ニ論スル中立國人民ニ對スル權力實行ハ單ニ公海若クハ交戰國領海ニ於テ中立國軍艦其他ノ官船ヲ除キ他ノ中立國ノ船舶即チ私有船舶ニ對スルモノニシテ公海ニ於テ他國商船ニ對シ軍艦カ權力ヲ及ホス能ハサル平時公法ノ例外タルモノトス

交戰國カ中立國領海以外ノ海上ニ於テ中立國箇人ノ船舶ニ權力ヲ及ホス場合ハ四種ト爲シ得ヘシ第一、臨檢搜查第二、封鎖ノ侵犯第三、戰時禁制品ノ犯則第四、

中立違犯ノ業務ニシテ此等ニ關スル法則ノ侵犯ハ交戰國自ラ處罰シ中立國ハ毫モ責任ヲ有スルコトナシ何トナレハ中立國ハ其版圖外ニ於ケル箇人ノ行爲ヲ監督スヘキ直接ノ義務ナク又其行爲ニ付キ責任ヲ有スルモノニ非ス換言スレハ中立國人民カ他國版圖內ニ於テ交戰者ノ權利ヲ侵害スルトキハ其領土國ハ之ヲ豫防鎭壓シ其行爲ニ關シテ交戰國ニ責任ヲ有スヘク若シ又公海ニ於テ斯ル行爲ヲ爲ス者アルトキハ如何ナル國家モ其海上ヲ管轄スル能ハス其場所ニ於ケル行爲ニ付キ責任ヲ負ハサルカ故ニ交戰國自ラ之ヲ豫防鎭壓シテ直接ニ其違犯者ヲ罰スルノ外ナキヲ以テナリ加之中立國ハ其人民カ戰時禁制品ノ運搬ニ從事シ若クハ封鎖ヲ破ラントスルノ行爲等ヲ國際公法上ノ犯罪ト看做サスシテ自國法廷ニ於テハ斯ル行爲ヲ目的トスル契約其他ノ法律行爲ヲ不法トセス隨テ國際公法上中立國人民ハ斯ル行爲ヲ爲ススノ自由ヲ有スルト同時ニ交戰國ハ戰爭ニ關スル權利ノ侵害トシテ之ヲ罰スルノ權利アルニ過キス而シテ其權利ハ國際公法ノ法則トシテ一般ニ承認セラレ中立國ハ交戰國カ其法則ノ實行上不法ナルコトアル場合ニ於テノミ外交機關ヲ經由シテ之ニ抗議シ其

救濟賠償ヲ求メ得ヘキニ止マルモノトス

第二節　中立國人民ノ普通商業

第一款　海上捕獲

海上捕獲トハ交戰國カ海上ニ於テ敵國財產ヲ攻擊シ之ヲ拿捕シテ沒收シ又中立國人民ノ船舶ニシテ戰爭行爲ノ妨害ヲ爲スモノヲ拿捕沒收スルノ行爲ニシテ敵國財產ニ關スル海上捕獲ハ交戰國間ニ關スル法則ニ關シテ說明スヘキモノナルカ故ニ予ハ中立國ノ財產ニ關スル海上捕獲ノミヲ茲ニ說明スヘシ古來中立國人民ニ關係アル海上捕獲ノ法則ハ三變遷アリタルモノトス即チ中世以來「コンソラトー、デル、マール」法典ニ於テハ交戰國ハ總テ海上ニ於ケル財產ヲ其所有者ノ敵人ト否トニ依リ捕獲ト否トヲ區別シ敵國ニ屬スル搭載品ハ縱令中立國船舶內ニ在ルモ之ヲ沒收シ同船ヲシテ其物品ヲ自國ノ安全ナル場所ニ運搬セシメ船長ハ物品所有者トノ契約ニ基ク運賃ヲ取得ス之ニ反シテ中立國船舶ハ普通ノ商業即チ其船舶ノ使用ハ封鎖ヲ破ラントスルコトナク又ハ中立國

違犯ノ業務ニ從事セス又搭載品ハ戰時禁制品ニ非ナルトキハ捕獲セラルルコトナク更ニ中立國ノ商品ハ敵國船舶內ニ在ルトキモ捕獲セラルルコトナクシテ其所有者ハ同船舶ノ拿捕ニ際シ船舶ヲ賠償シテ航海ヲ繼續シ得ヘク若シ其賠償ヲ爲ササルトキハ捕獲者ハ之ヲ本國ニ送致シテ船舶ヲ取得シ物品所有者ハ船舶所有者ニ拂フヘキ運賃ヲ捕獲者ニ支拂フヘク若シ商品所有者カ船舶賠償ニ付キ捕獲者ノ滿足スヘキ條件ヲ提出セルニ拘ハラス捕獲者カ之ニ應セサルトキハ其損害ノ賠償ヲ求メ又運賃支拂ノ義務ナシトセリ此法則ハ第十六世紀以後歐洲一般ニ行ハレ諸國ハ拿捕ニ係ル船舶及ヒ搭載品ヲ審判スル爲メ捕獲審檢所ヲ設クルノ義務ヲ負ヒタルモノトス

此法則ニ對シ第十七世紀中ニ於テ中立國ノ商業ノ妨害ヲ減スル爲メ捕獲ト否トヲ船舶如何ニ依リテ決スルノ法則即チ自由船自由物敵船敵物ノ主義ヲ生セリ此主義ハ和蘭國ノ主唱ニ出テ千六百五十一年乃至千八百年ニ於テ諸國ハ其便宜ヲ認メ條約ヲ以テ此法則ヲ約定シタルモノ勘カラス此主義ト舊法則トヲ比較シ最モ嚴ナル點ヲ集合セハ敵船內ノ中立國財產並ニ中立國船內ノ敵物ヲ

沒收スルコトト爲ヲ斯ル行爲ハ第十六世紀及ヒ第十七世紀ニ於テ往往行ハレ甚シキハ佛國ニ於テ行ヒタル如ク敵物ヲ搭載スル中立國船舶ハ其搭載ノ爲メ船舶モ敵船ニ盛築ストノ故ヲ以テ船舶ヲモ沒收セリ之ニ反シテ兩法則中寛大ナル點ヲ集合セハ敵船內ノ中立國物品ヲ自由トシ中立國船內ノ敵物ヲ自由トスヘキノ結果ト爲リ千七百五十二年「シレシヤ」事件ニ於テ普國ハ之ヲ主張シ千七百八十年及ヒ千八百年ノ武裝中立ニ於テ「バルチック」沿海諸國ハ宣言中ニ同一法則ヲ言明シタレトモ是レ固ヨリ當時ノ國際公法ニ非サリシカ千八百五十四年「クリミヤ」戰爭ニ於テ英佛兩國ハ此主義ヲ採用シ次テ千八百五十六年四月巴里宣言ヲ歐洲七大國間ニ締結シ其第二條ニ局外中立國ノ旗章ヲ掲クル船舶ニ搭載スル敵國ノ貨物ハ戰時禁制品ヲ除クノ外之ヲ拿獲スヘカラサルコト又第三條ニ敵國ノ旗章ヲ掲クル船舶ニ搭載ノ局外中立國ノ貨物ハ戰時禁制品ヲ除クノ外ハ之ヲ拿獲スヘカラサルコトシ米國、西班牙、黑西哥、「ペルシヤ」ヲ除クノ外ハ諸國一般ニ之ニ加盟スルニ至レリ就中米國ノ此宣言ニ加盟セサルハ同宣言第一條ニ於テ私船ヲ拿捕ノ用ニ供スヘカラストシタルコトニ反對シ同

雜報

○住職任免當否ノ豫斷　司法裁判所カ私權關係ニ付キ裁判ヲ下サントスルニ際シ先ツ權限外ニ屬スル事項ヲ判斷スルニ非サレハ其裁判ヲ與フルコト能ハスト認メタルトキハ其權限外ノ事項ニ付テモ判斷ヲ下スコトヲ得ルヤ否ヤハ議論ノ餘地ナシトセス此點ニ關スル大審院ハ其聯合部ニ於テ斷定ヲ與ヘテ曰ク「寺院ノ住職任免ハ固ヨリ民法上ノ行爲ニ出ツルモノニ非サルカ故ニ之ヲ民事上ノ訴ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ其當否ヲ判斷スルコトハ司法裁判所ノ職權ニ屬セスト雖モ主タル私權上ノ爭ニ住職任免ノ當否ノ如キ爭ノ加ハルトキ司法裁判所ニ於テ此爭ヲ豫斷スルコトヲ得サルモノトセハ原告ハ其請求ニ付キ常ニ司法裁判所ノ裁判ヲ受クルコトヲ得サルカ如キ奇怪ナル結果ヲ生スルニ至リ私權ノ侵害ヲ受ケタル場合ニ之カ救濟ヲ受クル爲メニ設ケラレタル司法裁判所ノ存シナカラ私權上ノ爭ニ付キ其裁判所ノ裁判ヲ受クルコトヲ得サルノ結果ヲ生ス可クシテ此ノ如キハ司法裁判所ヲ設ケタル精神ニ背戻セ

リ又司法裁判所ハ私權上ノ爭訟ヲ裁判スル可キ職責アル點ヨリ論スルモ至タル私權上ノ爭ヲ判斷スルニ當リ住職任免ノ當否ノ如キ爭ヲ聚斷スルコトヲ得ルモノト云ハサル可カラス然ラサルニ於テハ司法裁判所ハ其職責ヲ盡シ得可カラサレハナリ」ト（大審院明治三十四年（オ）第百八十八號妨害排除物品引渡事件明治三十五年三月三十一日民事聯合部判決）

○外交官及ヒ領事官試驗　同試驗ハ來ル九月二十二日ヨリ施行セラルヘキニ付キ志願者ハ明治二十七年六月外務省令第七號ニ依リ九月十一日マテニ出願書ニ履歷書及ヒ論文並ニ之ヲ外國文ニ翻譯シタルモノヲ添ヘ外交官及ヒ領事官試驗委員長珍田捨巳氏ニ宛テ外務省ニ差出ヲ要ス其論文題左ノ如シ

仲裁裁判ヲ論ス（用紙美濃紙十二行三十字詰ニシテ十五枚以下トス）

尙ホ前項翻譯ニ用フヘキ外國文ハ英文、佛文又ハ獨文ニ限ルモノトス

○判事檢事登用第一回試驗　同試驗ハ來ル九月四日ヨリ執行セラルヘキニ付キ明治二十四年五月司法省令第三號判事檢事登用試驗規則（明治二十六年司法省令第十六號同二十九年同省令第五十二號同三十年同省令第十六號ニテ改正アリ）第五號ニ該當スル志願者ハ同則第八條ニ依リ願書ニ履歷書及ヒ身分、年齡、兵役ニ關スル證明書並ニ同則第五條ニ定メタル要件ノ證明書ヲ添ヘ司法省ニ差出スコトヲ要ス又現ニ官廳ニ奉職スル者ハ其願書ニ所屬長官ノ認可書ヲモ添フルコトヲ要ス但願書受理期間ハ八月二十日限トス其筆記試驗日割ハ左ノ如シ

筆記試驗日割

九月四日（午前）憲法　同六日午前　商法　同九日（午前）國際公法
（午後）行政法　（午後）國際私法

同五日（午前）民法　同八日（午前）刑法
（午後）民事訴訟法　（午後）刑事訴訟法

尙ホ右試驗委員長並ニ委員ハ左ノ如シ

委員長　判事　寺島直　判事　柿原武熊
委員　判事　法學博士　井上正一　判事　小山溫
判事　志方鍛　判事　棚橋愛七
判事　掛下重次郎　判事　遠藤忠次
判事　鶴見守義　判事　齋藤十一郎

○辯護士試驗　同試驗志願書ハ明治二十六年五月司法省令第九號辯護士試驗規則（明治二十九年司法省令第五十三號ニテ改正アリ）ニ依リ其願書ヲ試驗委員長ニ宛テ控訴院檢事局ニ差出スコトヲ要ス其願書受理期間ハ九月十二日限トス尙ホ其筆記試驗日

制ハ左ノ如シ

筆記試驗日割

九月二十二日（午前 憲法　午後 行政法）
同 二十五日（午前 刑法　午後 刑事訴訟法）
同 二十七日 午前 商法
同 二十三日（午前 民法　午後 民事訴訟法）
同 二十六日（午前 國際公法　午後 國際私法）

試驗委員長、委員ハ前項判事檢事第一回登用試驗ノ分ニ同シ

○文官高等試驗臨時委員　同委員ハ左ノ諸氏仰付ケラレタリ

農商務省商工局長　木内重四郎
東京帝國大學法科大學教授　法學博士　一木喜德郎
同　穗積八束
同　檢事　古賀廉造
東京帝國大學法科大學教授　法學博士　土方寧
同　金井延
內務省參事官　水野錬太郎

檢事　平沼騏一郎
東京帝國大學法科大學教授　法學博士　寺尾亨
同　松崎蔵之助
同　岡田朝太郎
同　松波仁一郎
同　仁井田益太郎
同　高橋作衛

○學年試驗　本校當學期學年試驗ハ三學年共ニ本月二十三日ヨリ開始シ二學年三學年ハ七月四日ニ了リ一學年ハ同五日ニ了ルコトト爲レリ

法學志林

第三十二號　六月十五日發行

毎月一回十五日發行○定價一冊金十錢郵稅一錢
校友、生徒、校外生ニ限リ特價一冊金八錢郵稅一錢
十冊前金七十錢郵稅十錢

志林
○最近判決例批評二三……法學博士　梅謙次郎
○抵當權ノ訴ニ就テ……法學士　鈴木英太郎
○監視期間ノ起算點ヲ論ス……判事　平島直太郎
○南清南洋遊歷談……法學士　岡實軒

纂論
○社會主義ノ三大流派……靜

寄書
○慣習法ヲ論ス……校友　石原三郎
○豫審決定書ノ瑕疵ヲ公判裁判所ニ於テ發見シタル場合……法律學士　鶴見守義
○物ノ分裂ト所有權トノ關係……法學博士　富井政章
○地下ニ「トンネル」ヲ設ケテ他人ノ土地ヲ使用スル權利ノ性質……法學士　中山成太郎
○日英協約ノ國際法上ノ種類及ヒ效力……法學士　秋山雅之介
○再審ノ訴ニ於ケル訴訟物ノ價額ノ算定……法學士　松岡義正

解疑

判例
○大審院最新判決例三十五件

雜報
○叙勲件

記事
○叙勲件

發行所　東京市麹町區富士見町六丁目（電話番町一七四）　司法省指定　文部省認定　和佛法律學校

校外生規則摘要

一　講義錄ヲ分チテ第一學年、第二學年、第三學年ノ三部トス

一　講義錄ノ馬哉科目左ノ如シ

第一學年　法學原論、憲法、民法（第一編及ヒ第二編第六章マテ）、刑法（總論）、國際公法、經濟學

第二學年　民法（第三編）、商法（第一編、第二編、第三編）刑法（各論）、民事訴訟法（第一編、第二編）、刑事訴訟法、財政學

第三學年　民法（第二編第七章以下、第四編、第五編）、商法（第四編、第五編）、民事訴訟法（第三編以下）、破産法、行政法、國際私法

一　講義錄ハ毎月六回左ノ期日ニ發行ス

第一學年　五日　二十日　第二學年　十日　廿五日

第三學年　十五日　三十日（但二月三限リ末日）

一　校外生ハ何時ニテモ入學スルコトヲ得

一　月謝金左ノ如シ

第一學年　金三十錢　第二學年　金四十錢

第三學年　金五十錢　全學年　金一圓

一　月謝ハ郵便爲替、銀行小切手、逓運早達便ヲ以テ東京市麴町區富士見町六丁目十六番地和佛法律學校會計局宛ニテ送付スヘシ

明治二十二年十二月九日內務省許可

明治三十四年十一月四日第三種郵便物認可

明治三十五年六月十九日印刷
明治三十五年六月二十日發行
（定價金貳拾錢）

東京市牛込區東榎町十七番地
編輯兼發行者　松田久次郎

東京市牛込區矢來町三番地
印刷者　小宮山信好

東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地
印刷所　金子活版所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地
發行所　司法省指定　和佛法律學校
（電話番町百七十四番）